

MDView マニュアル

Ver 1.22

2013年4月12日

目次

1	MDView とは	3
1.1	MDView とは何者か	3
1.2	なぜ MDView が必要か	3
1.3	MDView の目指すところ	5
2	MDView のインストールとアンインストール	6
2.1	MDView の動作する環境	6
2.2	MDView のインストール	6
2.3	MDView のアンインストール	8
3	MDView の実行と簡単な使い方	9
3.1	MDView の実行	9
3.2	各部の名称と操作	10
3.3	各表示部内と各表示部間の移動	11
3.4	駅の検索	12
3.5	TripMeter と距離測定	14
4	その他の移動キー操作	17
4.1	メイン情報表示部でのキー操作	17
4.2	乗換情報表示部でのキー操作	17
4.3	その他の箇所での移動	18
5	MDView 機能リファレンス	19
5.1	ファイル (F)	19
5.2	表示 (V)	21
5.3	検索 (S)	24
5.4	情報 (I)	28
5.5	TripMeter(I)	31

5.6	オプション (O)	31
5.7	ヘルプ (H)	31
6	TripMeter	32
6.1	TripMeter とは	32
6.2	TripMeter の設定	32
6.3	TripMeter の再設定	33
6.4	TripMeter の終了	33
6.5	TripMeter と検索	33
6.6	TripMeter 表示	33
6.7	運賃表示	35
6.8	TripMeter 変更	40
6.9	TripMeter 変換	41
6.10	TripMeterTrace	41
6.11	TripMeter MultiSplit	43
7	経路入力モード	47
7.1	経路入力モードとは	47
7.2	経路入力モードの制約事項	47
7.3	経路入力モードの各部の名称	47
7.4	運賃計算	51
7.5	経路の転送	53
7.6	特殊な機能	54
7.7	経路入力モードの終了	57
8	オプション	58
8.1	運賃計算表示	58
8.2	運賃計算条件	59
8.3	特定都区市内	62
8.4	大都市近郊区間	63
8.5	検索条件	63
9	まとめ	64
9.1	著作権表示	64
9.2	謝辞	64
9.3	更新履歴	64

1 MDView とは

1.1 MDView とは何者か

MDView とは SWA 氏作成の JR 運賃計算プログラム「MARS for MS-DOS」に含まれるデータファイルの一部を可視化するためのビュープログラムです。

駅情報の閲覧を基本に、さまざまな付加機能を持っています。

1.2 なぜ MDView が必要か

このソフトウェアを作るきっかけとなったのは、以下の経緯があったからです。

例えば、以下のように山形から宇都宮まで乗車券を購入する機会があったとします。図1に路線図を示します。



図1 山形から宇都宮の路線図

この経路を MARS for MS-DOS で運賃計算すると以下の結果を得られます。運賃計算結果を図2に示します。

ここで注目べきは営業キロ^{*1*}^{*2}です。

運賃はある距離の範囲内にて同じとなる可能性があります。具体的に言えば上記区間で求められた営業キロの 250.4km と同じ運賃になるのは 240.1km から 260.0km までの範囲です。ということは、ぎりぎり同じ運賃である 260.0km まであと 9.6km 先の駅まで乗車券を購入しても同じ運賃になり、目的地よりも遠い駅まで同じ運賃で乗車券を購入することができる可能性を残します。

^{*1} 運賃計算のための距離。基本的には駅間の距離を採用していますが、上下線が大きく離れている場合など必ずしも実際の距離と一致しているわけではありません

^{*2} 今回は幹線のみを利用しているので営業キロだけに注目していますが、地方交通線を利用する場合は換算キロや擬制キロに着目する必要もできます



図2 MARS for MS-DOS での 山形 から 宇都宮 の運賃計算結果

目的地よりも遠い乗車券を購入しておく、いくつか良いことがあります。それは

1. 目的地から先や途中で方向を変更するときに、精算額が安くなることもある^{*3}
2. 目的地で途中下車扱いをすることにより、手元に乗車券を残すことができる^{*4}

などがあります。

上記の理由から早速 宇都宮 の次の駅の運賃を調べてみましょう。

このとき、宇都宮 駅付近を良くご存知の方なら次の駅が何駅かを知っているので、すぐに運賃を調べることができます。しかし、次の駅を知らない場合には別途何らかの方法で調べる必要がでてきます。

次の駅を調べるためには時刻表の巻頭地図を見るなど何らかの資料を参照することとなります。しかし、都合よく資料が手元にあるとは限りません。

そこで MDView の出番です。図 3 に MDView を実際に実行した画面を示します。

MDView は MARS for MS-DOS のデータファイルに含まれる駅データを可視化し、路線別に駅を一覧表示します。駅は営業キロでソートされているため、隣の駅が何駅なのかを容易に知ることができます。実行画面を見てみると、宇都宮 の次の駅が 雀宮、そしてその次が 石橋 であることが確認できます。

ちなみに 宇都宮 からは日光線方面に乗車券を伸ばす可能性もあるので、同様に MDView で次の駅を調べることができます。図 4 に MDView の実行画面を示します。

あとは MARS for MS-DOS で次々に 山形 から各駅の運賃を調べることで、どの駅までが同じ運賃で

^{*3} 必ず安くなるわけではありません。また短距離の乗車券では差額精算となるため目的地よりも遠くまで乗車券を購入しても安くなりません

^{*4} 100km 以下の乗車券や大都市近郊区間内の乗車券の場合は途中下車はできず途中で回収されます。乗車券に下車前途無効と表示されている場合が該当します



図3 MDViewの実行画面

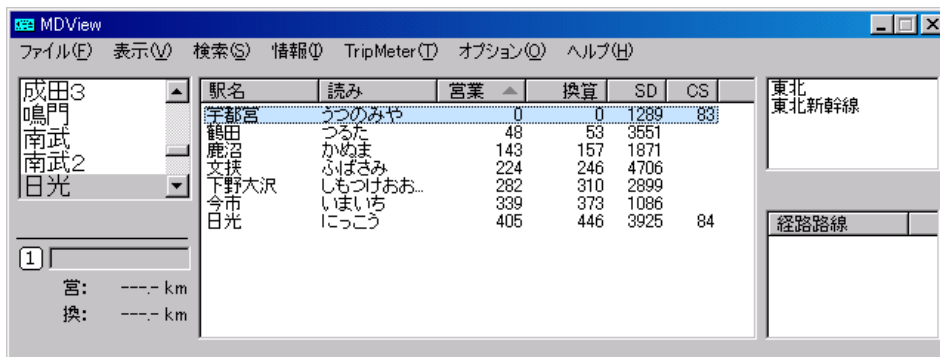


図4 MDViewにおける日光線 宇都宮 駅

あるかを確認することができます。

1.3 MDViewの目指すところ

MDViewはこれまでに示したとおり、MARS for MS-DOSのデータビューアです。運賃計算時の資料としてさまざまなデータを確認することを考えて作成しています。

MDViewはデータビューアである立場から、以下のポリシーを定めています。

- 既存のデータファイルを書き換えない
- MDViewから新しいファイルを作らない

また、MDViewは簡易な運賃計算機能も備えています。しかしあくまでも簡易の機能として実装しています。よってMDViewでの運賃計算結果は参考程度と考え、できればMARS for MS-DOSや手計算 :-)で再確認してみてください。

2 MDView のインストールとアンインストール

2.1 MDView の動作する環境

MDView Win32 版は Windows XP 環境で動作することを前提に作成しています。しかし厳密に互換性の検証は行っていません*5。そのため動作しない環境があるかもしれません。現在以下の環境で動作確認を行っています。

- Microsoft Windows XP Professional SP4
- Microsoft Windows Vista Business SP2

MDView HPC_Arm 版は Strong ARM 上で動作する Windows for Handheld PC 2000 が動作する環境、かつ画面サイズが 640*240 環境で動作することを前提に作成しています。現在、実機が手元にないため動作確認は行っていません。ご了承ください。*6

2.2 MDView のインストール

MDView は MARS for MS-DOS のデータビューアとして作られていることから、MARS for MS-DOS がすでにインストールされていることを前提としています。また、MDView は MARS for MS-DOS と同時に使われることを想定しているため、同じフォルダにインストールするのがもっとも簡単な方法です。

本ドキュメントでは MARS for MS-DOS が c:\MARS にインストールされていることとして記述します。別の場所にインストールしている場合は適宜読み替えをしてください。

インストールの流れは

- MDView の入手
- MDView 書庫ファイルの展開
- 必要ファイルのコピー

となります。順を追って説明します。また、関連する事項として

- MDView のみのインストール

についても説明します。

2.2.1 MDView の入手

MDView は作者サイトで配布しています。*7 作者サイトから MDView???.zip を入手してください。

2.2.2 MDView 書庫ファイルの展開

MDView の配布パッケージは ZIP の書庫ファイルとして提供しています。

書庫ファイルを伸張すると、以下のディレクトリ構成でファイルが配置されています。

*5 Win32 版は、64bit 版の Windows 7 上でも動作しているという報告を聞いています。

*6 今でもこの環境で MDView を動かしている方はいるのでしょうか.....

*7 現在の配布場所は <http://www.mmrl.gr.jp/mars/pub/MDView/index.html> です。

```

|
+--Win32
|   +---- MDView.exe   Win32 用実行ファイル
|
+--ARM
|   +---- MDView.exe   H/PC(ARM) 用実行ファイル
|
+--DAT
|   +---- MARS_CT.DAT  MDView.exe 用データファイル
|   +---- MARS_SS.DAT  MDView.exe 用データファイル
|   +---- MARS_DN.DAT  拡張読み「入力コード」用
|   +---- MARS_PN.DAT  拡張読み「プッシュホンコード」用
|   +---- MARS_PC.DAT  拡張読み「駅名コード番号」用
|   +---- MARS_UVC.DAT  特定駅強調設定ファイル
|
+--MDView.pdf  このマニュアル
+--Readme.txt  簡単な説明

```

2.2.3 必要ファイルのコピー

MDView 実行に最低限必要となるのは以下のファイルです。

- MDView.exe
- MARS_CT.DAT
- MARS_SS.DAT

これらのファイルを MARS for MS-DOS がインストールされている c:\MARS にコピーすればインストールは完了です。

さらに必要に応じて以下のファイルも同じ場所にコピーしてください

- MARS_DN.DAT (拡張読み「入力コード」用ファイル)
- MARS_PN.DAT (拡張読み「プッシュホンコード」用ファイル)
- MARS_PC.DAT (拡張読み「駅名コード番号コード」用ファイル)
- MARS_UVC.DAT (特定駅強調設定ファイル)

2.2.4 MDView のみのインストール

何らかの理由で^{*8}MARS for MS-DOS がインストールされている場所と別に MDView をインストールしたい場合は、新しいフォルダを作成し、MDView に必要なファイルに加えて MARS for MS-DOS より以下のファイルを同じフォルダにコピーしてください。

^{*8} 例えば、MARS for MS-DOS のデータファイルは最新だが、MDView は新しいバージョンのデータファイルの対応をサポートしている場合、MARS for MS-DOS は最新のバージョンにして MDView は古いデータファイルを使う場合など。

- MARS_SD.DAT
- MARS_NN.DAT
- MARS_SF.DAT
- MARS_JT.DAT

また、一部機能は、MARS for MS-DOS のデータファイルが必要です。上記と同様、MDView と同じフォルダに以下のファイルをコピーしてください。

- MARSHIST.DAT*⁹*¹⁰
- MARS_DKK.DAT*¹¹
- MARS_OUT.TXT*¹²*¹³

2.3 MDView のアンインストール

MDView をアンインストールする際は、実行ファイル及びデータファイルを削除してください。関連する実行ファイルは以下の通りです。

- MDView.exe
- MARS_CT.DAT
- MARS_SS.DAT
- MARS_DN.DAT
- MARS_PC.DAT
- MARS_PN.DAT
- MARS_UVC.DAT

MARS for MS-DOS の実行ファイルと同じフォルダに MDView 用のファイルをコピーしている場合は、誤って MARS for MS-DOS 用のデータファイルを削除しないように注意してください。

また、レジストリは特に使用していないので、アンインストールに伴うレジストリ操作は必要ありません。

*⁹ 「MARSHIST 検索機能」に必要

*¹⁰ MARSHIST.DAT は MARS for MS-DOS のアーカイブファイルを伸張した時点では存在しないかもしれません。MARS for MS-DOS を実行すると自動作成され、発駅・着駅が入力される度に自動更新されます。

*¹¹ 「大都市近郊区間最安経路検索」に必要

*¹² 「MARS_OUT 読込機能」に必要

*¹³ MARS_OUT.TXT は MARS for MS-DOS のアーカイブファイルを伸張した時点では存在しないかもしれません。MARS for MS-DOS の運賃計算結果を保存すると作成されます。

3 MDView の実行と簡単な使い方

本章では MDView の起動方法と、簡単な使い方を記述します。

基本的な使い方以外にも様々なオプションが存在しますが、詳細は機能リファレンスを参照してください。

3.1 MDView の実行

インストールが終了したら、MDView.exe のアイコンをクリックします。インストールに問題がなければ MDView が立ち上がりますが、図 5 に示すようなダイアログが表示される可能性があります。これは MDView.exe と同じフォルダにエラーダイアログが示すデータファイルが存在しないことを示しています。インストールを行ったフォルダにデータファイルがあるかをもう一度確認してください。



図 5 MARS_SD.DAT が見つからないエラー

MARS_SD.DAT 以外にも以下のファイルが見つからないエラーが表示される可能性があります。

- MARS_NN.DAT
- MARS_SF.DAT
- MARS_JT.DAT
- MARS_CT.DAT
- MARS_SS.DAT

インストールに問題が無いようなら、図 6 に示すようなウィンドウが表示されます。

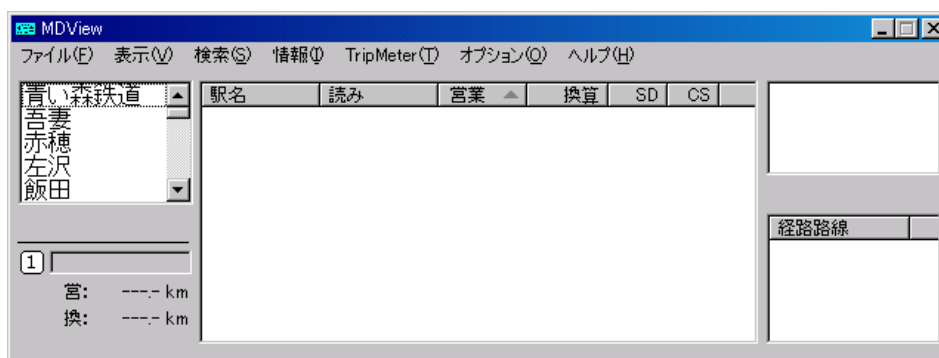


図 6 MDView 初期画面

このウィンドウが表示されれば、とりあえずインストールは成功です。また、MDView の起動時に、MDView と同じフォルダに以下の示すファイルが存在する場合は自動的に読み込みます。

- MARS_DKK.DAT

上記ファイルが MDView と同じフォルダになくても、MDView は起動します*14。

3.2 各部の名称と操作



図 7 MDView 各部説明

図 7 に MDView のウィンドウの説明図を示します。MDView のメインウィンドウは以下に示す 5 つの部分に分かれます。

- A 路線情報表示部
- B TripMeter 情報表示部
- C メイン情報表示部
- D 乗換路線情報表示部
- E TripMeter 経由路線表示部

それぞれについて詳細に解説します。

3.2.1 路線情報表示部

この部分には、MARS for MS-DOS のデータファイルに含まれる路線をあいうえお順で表示します。リストを選択するとメイン情報表示部に選択した路線に含まれる駅情報一覧が表示されます。

3.2.2 TripMeter 情報表示部

この部分には、第 6 章で解説する TripMeter の設定で得られる情報や設定状態が表示されます。

*14 ただし、一部の機能が利用できなくなります。

3.2.3 メイン情報表示部

この部分には、路線情報表示部で選択された路線に含まれる駅の情報を表示します。初期状態では路線を営業キロの昇順にソートして表示します。駅の情報は初期状態で以下のものを提示します。なお、括弧内はリストのヘッダに表示されている文字列です。

- 駅名漢字（駅名）
- 駅名読み（読み）
- 営業キロ（営業）
- 換算キロ、擬制キロ（換算）
- SD コード^{*15}（SD）
- 乗換駅コード^{*16}（CS）

3.2.4 乗換路線情報表示部

メイン情報表示部に表示されている駅が乗換可能駅である場合、乗換可能な路線の一覧を表示します。乗換路線情報を選択すると、路線情報表示部とメイン情報表示部が選択した路線の情報に更新されて表示します。

3.2.5 TripMeter 経由路線表示部

この部分には、第 6 章で解説する TripMeter を設定した際に、辿った路線を順番に表示します。

3.3 各表示部内と各表示部間の移動

路線情報表示部、メイン情報表示部および乗換路線表示部はリスト形式となっており、上下の移動を行い選択することができます。上下に動くためには以下のキー操作で可能です。表 1 に上下方向に移動するためのキー操作を示します。

表 1 上下移動

方向	キー
↑	↑ , k
↓	↓ , j

また、図 8 に示すように各表示部間を移動することができます。

赤色矢印は → 方向で「路線情報表示部」「メイン情報表示部」「乗換路線情報表示部」の順番にフォーカスが移動します。青色矢印は ← で、赤色矢印とは逆順にフォーカスが移動します。ただし両方向の移動とも各表示部にアイテムが無い場合は移動することができません。

表 2 にそれぞれの方向に移動するためのキー操作を示します。

ここまでの説明にてメイン情報表示部と乗換路線表示部を行き来することができるようになります。駅を辿ることにより目的の駅までたどり着くことができるようになったと思います。

^{*15} MARS.SD.DAT のどの位置に記録されているかを示すコード。データファイルの内容が変わると順番が変わるので、SD コードも変更されます。基本的に使うことは無いでしょう

^{*16} 乗換駅などに付番されているコードで MARS for MS-DOS 付属の CS.TXT に一覧表があります



図 8 各表示部間の移動

表 2 左右移動

方向	キー
←	← , h
→	→ , l

3.4 駅の検索

路線情報を辿ることにより目的の駅を探すことができるようになりましたが、もっと簡単に直接目的の駅を探す方法が用意されています。それは検索機能を利用することです。

検索機能呼び出すときには、メニューから「検索(S)」→「駅検索(S)」を選択するか、Ctrl + F キー、または/を押下します。すると図 9 に示すようなダイアログが表示されます。

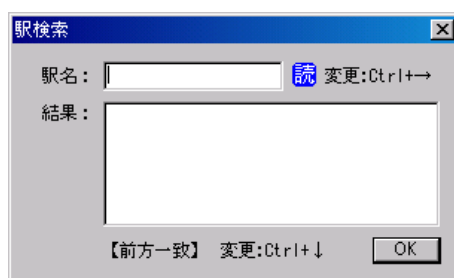


図 9 駅検索ダイアログ

実行時には駅名:にフォーカスされ、また日本語入力が On になります*17。ここで検索する駅名をひらがなで入力し、Enter を押して確定すると駅データから検索が実行されます。1 件以上検索結果がある場合は、結果:に候補が表示されます。

例えば 宇都宮 駅を検索してみます。検索を実行すると図 10 のようになります。

検索の初期状態は前方検索です。よって「うつ」で検索すると図 11 のようにいくつかの駅が検索結果として表示されます。

*17 慣れないと、自分で IME を On にする操作をしてしまい、日本語入力が Off にしてしまうかもしれません。

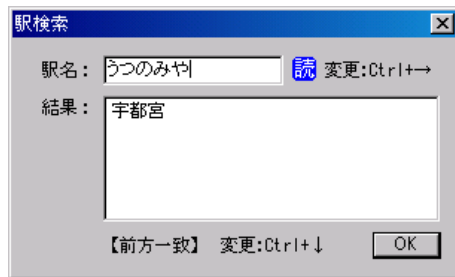


図 10 宇都宮 検索結果

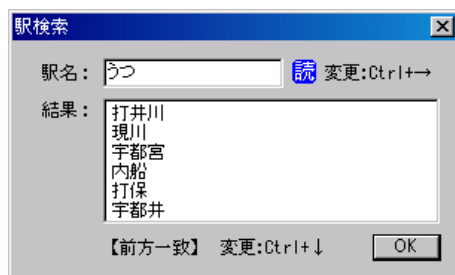


図 11 「うつ」検索結果

検索結果が表示されているときに Enter を押下すると結果:にフォーカスが移ります*18。検索する駅を上下移動キーを利用して選択します。選択したら Enter を押下すると確定します。ただし、選択した駅が複数の路線にまたがっている場合は、路線を選択するダイアログが表示されます。図 12 に 宇都宮 を選択した際に表示されるダイアログを示します。

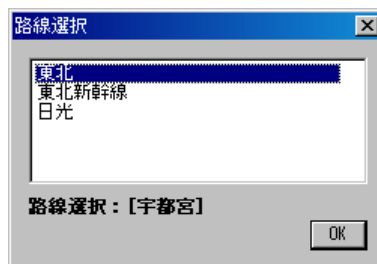


図 12 宇都宮 選択時の路線選択ダイアログ

ここでも同様に上下移動キーを利用して路線を選択します。選択したら Enter を押下することで確定します*19。

*18 検索結果が表示されていないときに Enter を押下してもフォーカスは移りません。

*19 上下移動キーで選択の上に確定する方法のほか数字の 1 から 6 のキーを使って確定することができます。路線選択ダイアログの上から何番目かに対応するキーを入力します。図 12 において日光線を選択する場合は、3 を押下すると確定します。

3.5 TripMeter と距離測定

TripMeter はある駅を起点として、現在選択している駅がどの程度離れているかを測定する機能です。この距離は最短距離を測定するものではなく、利用者が任意の経路を指定して、その駅間の距離を測定します。^{*20}

例として 山形 から 宇都宮 まで経由は奥羽線、東北線経由で移動する場合の距離を測定することとします。

まず、山形 に移動します。これは検索機能を使うのが一番簡単です。図 13 に 山形 へ移動した状態を示します。

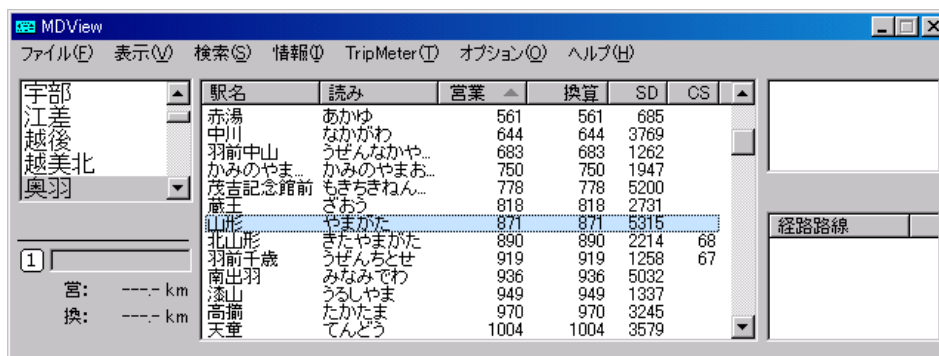


図 13 山形 へ移動

山形 が選択されている状態でメニュー「TripMeter(T)」→「設定(S)」を選択します。すると図 14 に示すように TripMeter 情報表示部の「営:」および「換:」に距離が表示されます。これはそれぞれ営業キロと換算キロを示します。



図 14 TripMeter 開始

試しに下方向に動いて 北山形 へ移動してみます。すると、図 15 に示すように営業キロと換算キロが 1.9km であることがわかります。

それでは 宇都宮 に向けて移動しましょう。奥羽線は (北) 福島 で乗り換えるので、奥羽線の一番上まで移動します。図 16 に示すようにここまでの距離を測定されているのがわかります。表示を見ると、87.1km で

^{*20} 測定するのは営業キロおよび換算キロ (又は擬制キロ) です。

駅名	読み	営業	換算	SD	CS
赤湯	あかゆ	561	561	685	
中川	なかがわ	644	644	3769	
羽前中山	うぜんなかや...	683	683	1262	
かみのやま	かみのやまお...	750	750	1947	
茂吉記念館前	もきちきねん...	778	778	5200	
麻生	さおう	818	818	2731	
山形	やまがた	871	871	5315	
北山形	きたやまかた	890	890	2214	68
羽前千歳	うぜんちとせ	919	919	1258	67
南出羽	みなみでわ	936	936	5032	
漆山	うるしやま	949	949	1337	
高橋	たかたま	970	970	3245	
大車	てんどう	1004	1004	3579	

図 15 山形 - 北山形

あることがわかります。

駅名	読み	営業	換算	SD	CS
北福島	きたふくしま	0	0	4523	72
世木野	せきのの	38	38	2661	
庭坂	にわさか	69	69	4086	
赤岩	あかいわ	146	146	666	
板谷	いたや	212	212	1000	
峠	とうげ	245	245	3610	
(奥)大沢	おおさわ	288	288	1498	
間根	まね	348	348	3147	
米沢	よねざわ	401	401	5459	70
置賜	おきたま	456	456	1424	
高橋	たかたま	499	499	3262	
赤湯	あかゆ	561	561	685	
中川	なかがわ	644	644	3769	

図 16 山形 - (北) 福島

現在奥羽線であることから (北) 福島 で乗り換えることができる路線が乗換路線情報表示部に表示されています。乗り換えられる路線は東北線と東北新幹線です。ここで右方向へ移動するキーを押下して乗換路線情報部へフォーカスを移します。フォーカスが移ったら上下方向へ移動するキーを押下して東北を選択します*21。選択を行うと図 17 に示すようにメイン情報表示部が東北線の情報が表示されます。

このとき TripMeter 経路路線表示部を見てみると奥羽線に加えて東北線が表示されていることがわかります。東北線に 宇都宮 駅が含まれるので、上方向へ移動するキーを押下して宇都宮まで移動します。図 18 に宇都宮 まで移動した状態を示します。

ここまでで 山形 から 宇都宮 は 250.4km だということがわかります。さらにメニューから「TripMeter(T)」→「運賃表示(F)」を選択すると TripMeter 情報表示部の上部にこの区間の運賃が表示されます。図 19 に運賃計算結果を示します。

運賃表示の横に青色の燈火の信号が表示されていますが、これは片道乗車券を購入する条件を満たしていることを示します。赤色の燈火の場合は、経路の重複や、何らかのエラーが発生していることを示します。さらに、黄色の燈火の場合は、発着が同じ駅で営業キロが 0km であることを示しています。

*21 東北新幹線でも 宇都宮 へ行くことができます。しかしここでは説明のために東北線を利用することとします。別に東北新幹線を使うのをケチっているわけではないですよ。

駅名	読み	営業	換算	SD	CS
杉田	すぎた	2466	2466	3112	
二本松	にほんまつ	2503	2503	4081	
云達	あたち	2545	2545	771	
松川	まつかわ	2595	2595	4864	
金谷川	かなやがわ	2640	2640	1863	
南福島	みなみふくしま	2694	2694	5048	
北福島	ふくしま	2728	2728	4622	72
東福島	ひがしふくしま	2788	2788	4431	
伊達	だて	2819	2819	3413	
桑折	こおり	2859	2859	2463	
藤田	ふじた	2893	2893	4661	
貝田	かいだ	2949	2949	1742	
越河	こすごう	2986	2986	2502	

図 17 (北) 福島 で東北線に乗換

駅名	読み	営業	換算	SD	CS
間々田	ままだ	733	733	4895	
小山	おやま	806	806	1708	85
小金井	こがねい	881	881	2474	
自治医大	じちいだい	907	907	3082	
石橋	いしはし	954	954	948	
雀宮	すずめのみや	1018	1018	3121	
宇都宮	うつのみや	1095	1095	1287	83
岡本	おかもと	1157	1157	1597	
宝積寺	ほうしゃくじ	1212	1212	4763	81
氏家	うじいへ	1271	1271	1246	
蒲須坂	かますさか	1316	1316	1889	
片岡	かたおか	1355	1355	1825	
矢板	やいた	1418	1418	5244	

図 18 山形 - 宇都宮

駅名	読み	営業	換算	SD	CS
間々田	ままだ	733	733	4907	
小山	おやま	806	806	1704	85
小金井	こがねい	881	881	2477	
自治医大	じちいだい	907	907	3092	
石橋	いしはし	954	954	946	
雀宮	すずめのみや	1018	1018	3130	
宇都宮	うつのみや	1095	1095	1284	83
岡本	おかもと	1157	1157	1592	
宝積寺	ほうしゃくじ	1212	1212	4775	81
氏家	うじいへ	1271	1271	1243	
蒲須坂	かますさか	1316	1316	1887	
片岡	かたおか	1355	1355	1822	
矢板	やいた	1418	1418	5251	

運賃: 4310 円

図 19 山形 - 宇都宮 の運賃表示

ここで計算される運賃計算結果は、まだまだ精度に不安を残しています*22。不具合を発見した場合は、作者までご一報ください。

*22 できるだけ正確な結果が得られるようバグ等への対処をしていますが、まだ精度は高いとはいえません。

4 その他の移動キー操作

MDView にはデータ表示部の移動の手間を軽減するためのショートカットキーが設定されています。以下の各節で説明します。

4.1 メイン情報表示部でのキー操作

本節ではメイン情報表示部で駅が選択されている状態を前提としています。上下方向の移動を一気に行う方法を主に扱います。

この他に路線内検索機能や乗換路線検索機能を利用して移動を行うことも可能ですが、ここでは取り扱いません。具体的にはそれぞれの機能解説の箇所を参照してください。

4.1.1 先頭へ移動

メイン情報に駅情報が表示されている際に、路線の先頭の駅、末尾の駅にジャンプすることができます。表示のソート順にかかわらず、現在の表示の先頭 / 末尾にジャンプします。表 3 に先頭 / 末尾へ移動するキー操作を示します。

表 3 先頭 / 末尾へ移動

位置	キー
先頭	0, Ctrl + Shift + ↑
末尾	\$, Ctrl + Shift + ↓

4.1.2 前 / 次の CS 設定駅へ移動

メイン情報に駅情報が選択されている際に、次の CS が設定されている駅、前の CS が設定されている駅にジャンプすることができます。表示のソート順にかかわらず、現在の表示順にしたがってジャンプします。表 4 に前 / 次の CS 設定駅へ移動するキー操作を示します。

表 4 前 / 次の CS 設定駅へ移動

位置	キー
前の CS 設定駅	b, Shift + ↑
次の CS 設定駅	w, Shift + ↓

4.2 乗換情報表示部でのキー操作

メイン情報表示部の駅を選択したときに、選択している駅が乗換可能である場合は乗換情報表示部に乗換可能路線が表示されます。このとき数字の 1 から 5 のキーで乗換路線の選択と確定を一気に行うことができます。

乗換路線が 3 つ表示されている場合、表示されている路線に対して上から 1,2,3 に対応します。乗換情報表

示部には最大5路線表示されるため、5まで利用する可能性があります*²³。

4.3 その他の箇所での移動

その他の箇所でも今まで紹介した上下移動や先頭/末尾へジャンプするキーが使えるようになっています。いろいろと試してみてください。

*²³ 乗換情報表示部に3つしかないのに4を押下した場合、特に反応はしません。

5 MDView 機能リファレンス

5.1 ファイル (E)

5.1.1 拡張読みファイル

MDView では駅の情報を提供する際に標準では駅名の漢字表記、読み及び路線毎に営業キロ、換算キロなどを表示しますが、その他にも拡張読みファイルを利用することで追加的な情報を表示させることができます。現在のバージョンでは以下の3種類のファイルに対応しています。

- MARS_DN.DAT (拡張読み「入力コード」用ファイル)
- MARS_PN.DAT (拡張読み「プッシュホンコード」用ファイル)
- MARS_PC.DAT (拡張読み「駅名コード番号コード」用ファイル)

それぞれのファイルは MDView の実行ファイルと同じディレクトリに配置し、メニューを選択することで読み込みが行われます。図 20 に拡張読みファイルのメニューを示します。各ファイルは一気に全部読み出すことも単独で読み出すことも可能です。

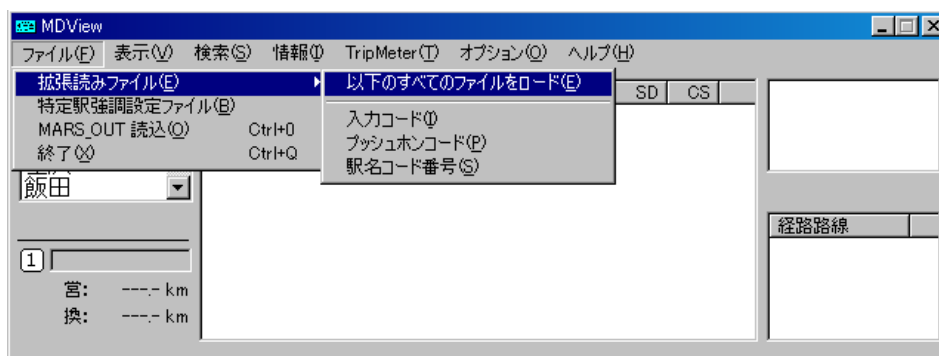


図 20 拡張読みファイルのメニュー

拡張読みファイルの読み込みが成功すると、乗換路線情報表示部と TripMeter 経由路線表示部の間にアイコンが表示されます。図 21 にアイコンが表示された状態を示します。

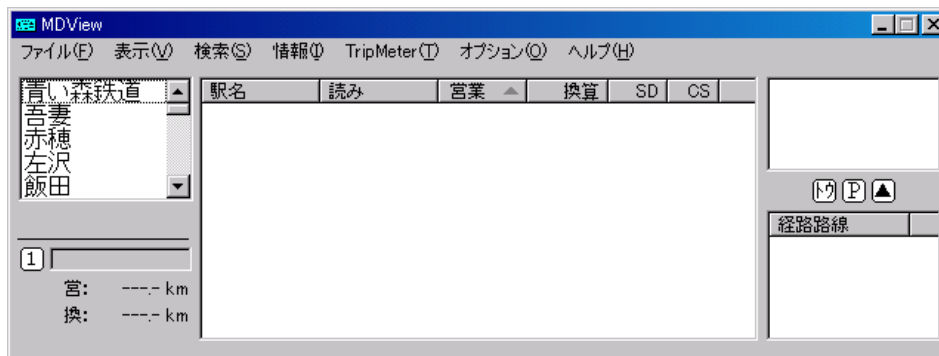


図 21 拡張読みファイル完了のアイコン表示

それぞれのアイコンは、「トウ」と表示されているのが「入力コード」を、「P」と表示されているのが「プッシュホンコード」を、「 」と表示されているのが「駅名コード番号コード」を読み込み完了したことを示します。

5.1.2 大都市近郊区間ファイル

MDView では、大都市近郊区間内相互発着の経路に対し、最安検索の実施機能を有しています。この機能を有効にするためには、以下のファイルを読み込む必要があります。

- MARS_DKK.DAT

通常、MDView 起動時に、同じフォルダに MARS_DKK.DAT が存在する場合は自動的に読み込みます。メニューの「ファイル (F)」→「大都市近郊ファイル (K)」を確認し、チェックマークが表示されていれば MARS_DKK.DAT を読み込んでいます。

MDView の起動時、MDView と同じフォルダに MARS_DKK.DAT が存在していなかった場合、自動的に読み込みが行われません。MDView 起動後、MDView と同じフォルダに MARS_DKK.DAT を保存した後、メニューから選択を行えば MARS_DKK.DAT の読み込みを行うことができます。

5.1.3 特定駅強調設定ファイル

MDView では特定の駅に色をつけることにより強調する機能をもっており、拡張ファイルとして設定を保管しています。ファイルは以下のとおりです。

- MARS_UVC.DAT

ファイルは MDView の実行ファイルと同じディレクトリに配置し、メニューを選択することで読み込みが行われます。読み出しが成功すると、5.2.4 節で解説する特定駅強調メニューに内容が反映され、特定駅強調設定を選択することができるようになります。

5.1.4 MARS.OUT 読込

MDView は、MARS for MS-DOS の運賃計算結果を記録したファイル MARS.OUT.TXT を読み込み、TripMeter 機能に取り込むことができます。MARS.OUT.TXT は、MDView の実行ファイルと同じディレクトリに配置しているファイルを読み込み対象とします。Ctrl + 0 を押下すると、図 22 に示すダイアログが表示されます。^{*24}

図 22 のダイアログには、MARS.OUT.TXT に保存された最大 6 件の最新運賃計算結果が表記されます。運賃計算結果を選択し確定すると、第 6 章で紹介する TripMeter 機能が発動し、運賃計算結果のとおり情報をセットされます。

5.1.5 終了

MDView を終了します。

^{*24} MARS.OUT.TXT が読み込めない場合や、有効な運賃計算結果が保存されていない場合は、ダイアログが表示されません。

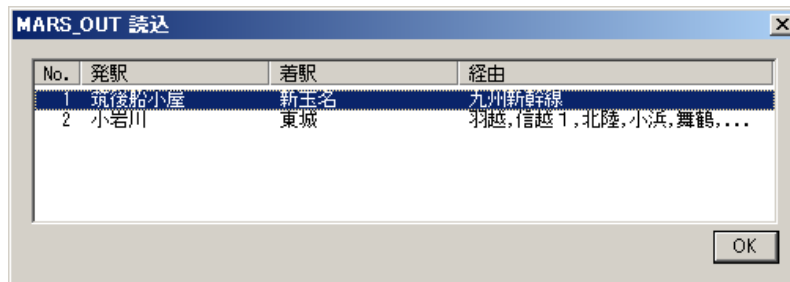


図 22 MARS_OUT 読み込み

5.2 表示 (V)

5.2.1 ソート順

メイン情報表示部は、初期設定で営業キロの降順で表示しています。この表示順は昇順にすることもできます。

降順と昇順を入れ替えるためには、表示 (V) の中から ソート順 (S) を選択し、降順と昇順を選びます。

また、メイン情報表示部のヘッダの中から、営業をクリックすると降順と昇順を入れ替えることができます。

5.2.2 路線

路線情報表示部は、初期状態で漢字で記述された路線名が表示されます。これ以外にも「読み」と「路線コード」で表示することができます。

路線情報の表示を変えるためには、表示 (V) の中から 路線 (L) を選び、「漢字 (K)」「読み (R)」「コード (C)」の中から選択します。

5.2.3 読み

メイン情報表示部は、初期状態で駅名の読みはカナでの読みが表示されます。これ以外にも「入力コード」「ブッシュホンコード」「駅名コード番号」で表示されることができます。ただし、それぞれの拡張的な読みは、拡張データファイルが存在することが前提となります。

それぞれの読みとデータファイルの関係は表 5 に示します。

表 5 拡張読みとデータファイル

読み	データファイル
入力コード	MARS_DN.DAT
ブッシュホンコード	MARS_PC.DAT
入力コード番号	MARS_PN.DAT

上記のファイルが MDView.exe と同じディレクトリに存在する場合は拡張情報を読み取ります。読み取った情報を基に拡張読み表示を行います。

5.2.4 特定駅強調

メイン情報表示部の各駅の情報、特定の条件を満たす駅について強調表示することができます。強調表示を行う場合は、表示 (V) から 特定駅強調 (B) を選択し、条件に合うものを選択します。

通常は、「無し (N)」、「乗換駅 (C)」、「特定都区市内等 (Z)」が準備されています。図 23 に乗換駅を強調した場合の表示例を示します。他の路線に乗り換えることが出来る駅は着色強調表示します。

駅名	読み	営業	換算	SD	CS
東京	とうきょう	0	0	3606	148
有楽町	ゆうわくちよう	8	8	5364	
新橋	しんばし	19	19	3021	
浜松町	はまつちよう	31	31	4266	
田町	たまち	46	46	3376	
品川	しながわ	68	68	2808	153
大井町	おおいまち	92	92	1463	
大森	おおもり	114	114	1587	
蒲田	かまた	144	144	1891	
川崎	かわさき	182	182	2013	154
鶴見	つるみ	217	217	3557	166
新子安	しんこやす	248	248	2983	
東神奈川	ひがしかなが...	270	270	4362	173

図 23 乗換駅強調

図 24 に特定都区市内を強調した場合の表示例を示します。旅客営業規則 86 条に規定される特定都区市内の範囲の駅を着色強調表示します。

駅名	読み	営業	換算	SD	CS
岩沼	いわぬま	3342	3342	1169	71
館腰	たてこし	3379	3379	3360	
名取	なとり	3414	3414	3888	
南仙台	みなみせんだい	3441	3441	5032	
太子堂	たいしどう	3463	3463	3223	
長町	ながまち	3473	3473	3861	
仙台	せんだい	3518	3518	3181	66
東仙台	ひがしせんだい	3558	3558	4400	
岩切	いわきり	3599	3599	1145	53
陸前山王	りくぜんさん...	3622	3622	5498	
国府多賀城	こくふたがじよ	3635	3635	2481	
塩釜	しおがま	3652	3652	2759	
松島	まつしま	3752	3752	4886	

図 24 特定都区市内強調

この他に ファイル (F) → 特定駅強調設定ファイル (B) を選択し、MARS_UCV.DAT を読み込んでいる場合には「ユーザ設定 (1)」から「ユーザ設定 (4)」の 4 種類も利用することができます。

5.2.5 CS 限定表示

メイン情報表示部にて、CS コードが設定されている駅を選択時に 表示 (V) → CS 限定表示 (C) を選択すると CS が設定されている駅のみが表示されるようになります。

この状態のときに再び選択を行うと、路線内の全駅の表示に戻ります。なお、路線を変更したり、検索などを利用して他の駅に移動すると、CS 限定表示は解消されます。

図 25 に CS 限定表示状態のメインウィンドウを示します。

駅名	読み	営業	換算	SD	CS	身延
茅ヶ崎	ちがさき	586	586	3441	177	
国府津	こつづ	777	777	2438	178	
小田原	おだわら	839	839	1660	179	
熱海	あたま	1046	1046	767	180	
三島	みしま	1207	1207	4946	182	
沼津	ぬまつ	1262	1262	4098	183	
富士	ふじ	1462	1462	4649	184	
静岡	しずおか	1802	1802	2794	185	
掛川	かけがわ	2293	2293	1768	186	
浜松	はまつ	2571	2571	4264	187	
豊橋	とよはし	2936	2936	3722	188	
三河安城	みかわあんじ...	3363	3363	4922	189	
大府	おおふ	3465	3465	1563	190	

図 25 CS 限定表示

5.2.6 距離オフセット

距離オフセットは、表示されている営業キロ / 換算キロを何らかの点を起点として設定し、その点からの距離へと変更する機能です。距離オフセットには「なし (N)」、「オフセット設定 (O)」、「TripMeter 連動 (D)」、「TripMeter 連動 + 設定 (S)」の 4 つの状態があります。

「なし (N)」は、文字通りオフセット設定がない状態です。他の設定を行っているときに、解除として利用可能です。

「オフセット設定 (O)」は、現在選択中の駅を中心に距離を表示をする設定にすることができます。図 26 に設定ダイアログを示します。

路線オフセット設定

東海道 線 静岡 駅 に対してオフセットの設定が可能です

オフセット設定

営業キロ: ゼロに設定 (Z)

換算キロ: オフセットに設定 (O) Cancel

図 26 オフセット設定

ここで、「営業キロ」および「換算キロ」に設定駅の基準となる駅の距離を入力します。さらに、「オフセットに設定 (O)」ボタンを押下すると、メインウィンドウのメイン情報表示部が変更されます。図 27 に 静岡 へ「営業キロ」を 100、「換算キロ」を 200 として設定した例を示します。

「ゼロに設定 (Z)」ボタンを押下した場合は、「営業キロ」「換算キロ」ともに 0 と設定し、「オフセットに設定 (O)」ボタンを押下したものと同等効果が得られます。なお、オフセット設定は、メイン情報表示部の下方向に距離が増えるように表示されます。

次に「TripMeter 連動 (D)」ですが、これは第 6 章で説明する TripMeter に連動し、発駅を 0 として表示を行う機能です。発駅からの絶対距離を表示します。最後に「TripMeter 連動 + 設定 (S)」ですが、これは「TripMeter 連動 (D)」に加えて発駅の距離を 0 以外に設定したい場合に利用します。距離の設定方法は「オフセット設定 (O)」でのダイアログと同様です。

駅名	読み	営業	換算	SD	CS
蒲原	かんばら	-153	-53	2061	
由比	ゆい	-118	-18	5357	
興津	おきつ	-59	41	1611	
清水	しみず	-12	88	2854	
草薙	くさなぎ	40	140	2288	
東静岡	ひがししずお	75	175	4383	
静岡	しずおか	100	200	2794	185
安治川	あべかわ	143	243	800	
用宗	もちむね	164	264	5210	
焼津	やいづ	235	335	5245	
西焼津	にしやいづ	268	368	4059	
藤枝	ふじえだ	301	401	4653	
六合	ろくごう	347	447	5527	

図 27 静岡 へのオフセット設定

5.3 検索 (S)

5.3.1 検索に共通する操作

検索には駅検索や路線検索などの種類があり、共通の操作にて動作します。図 28 に例として駅検索のダイアログを示します。

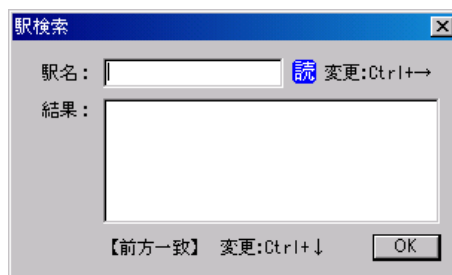


図 28 検索ダイアログ (駅検索)

ダイアログは、検索条件を入れるテキストボックス (図中では「駅名:」) と、検索結果を表示するリストに分かれます。

検索条件を入れるテキストボックスにて Ctrl + を押下すると、検索対象を「読み」と「漢字」を変更することができます。現在の検索条件は、検索ダイアログのタイトルに < 漢字 > となっているときは漢字モードです。また、テキストボックスの右側にあるアイコンが「読」となっている場合は読みモード、「漢」となっている場合は、漢字モードです。

検索条件を入れるテキストボックスにて Ctrl + を押下すると、検索方法を「前方一致」「部分一致」「完全一致」「後方一致」に変更することができます。

検索結果リストに 1 つ以上の情報が含まれてい場合、Shift + を押下することで検索条件を入れるテキストボックスへ移動することができます。同様に検索条件を入れるテキストボックスにて Shift + を押下するか Enter を押下することで、検索結果リストに移動することができます。

検索結果リストでは対象を選択し、Enter を押下することで確定することができます。

ために 宇都宮 駅を検索してみます。検索を実行すると図 29(再掲) のようになります。

検索の初期状態は前方検索です。よって「うつ」で検索すると図 30(再掲) のようにいくつかの駅が検索結

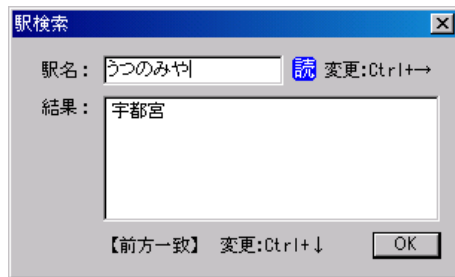


図 29 宇都宮 検索結果 (再掲)

果として表示されます。

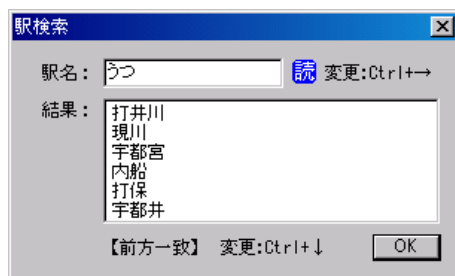


図 30 「うつ」検索結果 (再掲)

検索結果が表示されているときに Enter を押下すると結果:にフォーカスが移ります^{*25}。検索する駅を上下移動キーを利用して選択します。選択したら Enter を押下すると確定します。ただし、選択した駅が複数の路線にまたがっている場合は、路線を選択するダイアログが表示されます。図 31(再掲)に 宇都宮 を選択した際に表示されるダイアログを示します。

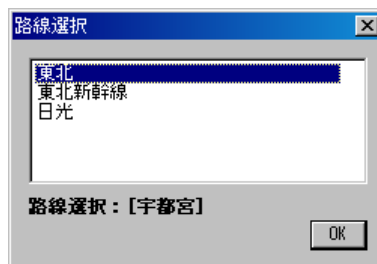


図 31 宇都宮 選択時の路線選択ダイアログ (再掲)

ここでも同様に上下移動キーを利用して路線を選択します。選択したら Enter を押下することで確定します^{*26}。

^{*25} 検索結果が表示されていないときに Enter を押下してもフォーカスは移りません。

^{*26} 上下移動キーで選択の上に確定する方法のほか数字の 1 から 6 のキーを使って確定することができます。路線選択ダイアログの上から何番目かに対応するキーを入力します。図 31(再掲)において日光線を選択する場合は、3 を押下すると確定します。

5.3.2 駅検索

検索 (S) → 駅検索 (S) を選択すると、駅検索ダイアログが表示されます。文字通り、駅を検索します。初期の検索は「読み」「前方検索」です。なお駅名の重複を防ぐために、駅名の前に (北) 福島 など路線名の略号を () の中に入れて記載してある場合があります。この路線名の略号は () を含め検索対象ではありません。駅が選択されると、選択された駅へ移動します。なお、駅が複数の路線にまたがる場合は、路線を選択するダイアログが表示されます。路線を選択し、確定してください。

5.3.3 路線検索

検索 (S) → 路線検索 (L) を選択すると、路線検索ダイアログが表示されます。文字通り、路線を検索します。初期の検索は「読み」「前方検索」です。路線が選択されると、選択された路線へ移動します。このときメイン情報表示部の選択は無効になります。

5.3.4 路線内検索

路線が選択されているときに、検索 (S) → 路線内検索 (I) を選択すると、路線内検索ダイアログが表示されます。初期の検索は「読み」「前方検索」です。現在の路線内の駅を対象とした駅検索を行います。検索方法は「駅検索」と同様です。

5.3.5 乗換検索

メイン情報表示にて駅が選択されているときに、検索 (S) → 路線内検索 (C) を選択すると、乗換検索ダイアログが表示されます。このとき、候補が「結果：」リストに一覧表示されます。路線を選択し、確定してください。さらに絞り込みを行いたい場合は、Shift + を押下し、「路線名：」テキストボックスに移動します。このとき初期の検索条件は「読み」「前方検索」です。絞り込み条件を入れると候補が変更されます。絞り込み候補は、現在路線の乗換可能な路線に加え、更に次の路線も対象となります。図 32 に赤穂線から検索語「さ」で絞り込んだ結果の例を示します。検索結果には山陽線に加え、山陽線を經由して山陰線、新幹線を經由して山陰線等の結果が含まれます。Shift + もしくは Enter を押下することで、「結果：」リストへ移動することができます。路線を選択し、確定してください。なお、乗換先路線が複数駅で接続されている場合は、接続駅を確認するダイアログが表示されます。接続駅を選択し、(Enter) を押下することで確定します。

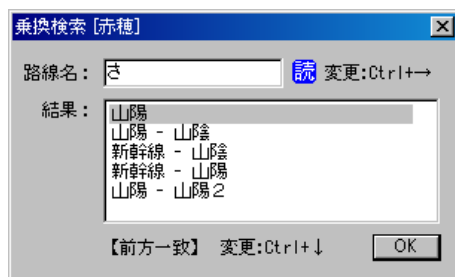


図 32 赤穂線 から検索語「さ」で絞り込んだ結果

5.3.6 拡張検索

「駅検索」「路線検索」「路線内検索」「乗換検索」の4種類の基本的な検索に加え、検索条件を漢字とする検索についても機能を準備しています。「駅検索」「路線内検索」については、検索条件を「入力コード」とする検索機能を準備しています。この機能は MDView.exe と同じフォルダに、MARS_DN.DAT が存在している必要があります。検索開始時点で MARS_DN.DAT が読み込まれていない場合は自動的に読み込みが行われます。さらに、拡張検索には「MARSHIST 検索」が存在します。この機能については次項で説明します。

5.3.7 MARSHIST 検索

MARSHIST 検索は、MARS for MS-DOS の駅入力履歴を記録しているを読み込み、履歴に現れる駅を選択する機能です。この機能を実行するためには、MDView と同じフォルダに MARSHIST.DAT が配置されていることが求められます。機能を実行すると、以下のダイアログが表示されます。



図 33 MARSHIST 検索ダイアログ

表示されている駅を選択し、Enter を押下すると、駅が確定します。ただし、選択した駅が複数の路線にまたがっている場合は、路線を選択するダイアログが表示されます。図 31(再掲)に宇都宮を選択した際に表示されるダイアログを示します。

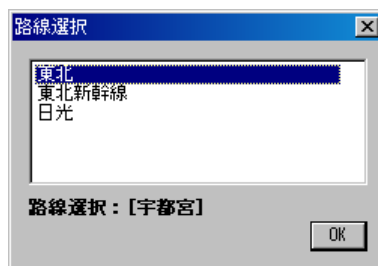


図 34 宇都宮 選択時の路線選択ダイアログ (再掲)

ここでも同様に上下移動キーを利用して路線を選択します。選択したら Enter を押下することで確定します。

5.4 情報 (I)

5.4.1 路線情報表示

路線が選択されているとき、情報 (I)→ 路線情報表示 (L) を選択すると、路線の情報を示すダイアログが表示されます。図 35 に 東海道 の例を示します。

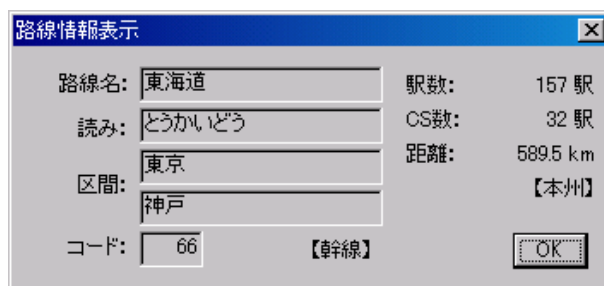


図 35 路線情報表示ダイアログ

5.4.2 駅情報表示

メイン情報表示部にて駅が選択されているとき、情報 (I)→ 駅情報表示 (S) を選択すると、駅の情報を示すダイアログが表示されます。図 36 に 東京 の例を示します。駅が特定都区市内もしくは山手線内の場合、もしくは臨時駅の場合はそれらの情報をアイコンで表示します。さらに、拡張読みデータを読み込んでいる場合は、その情報も併せて表示します。

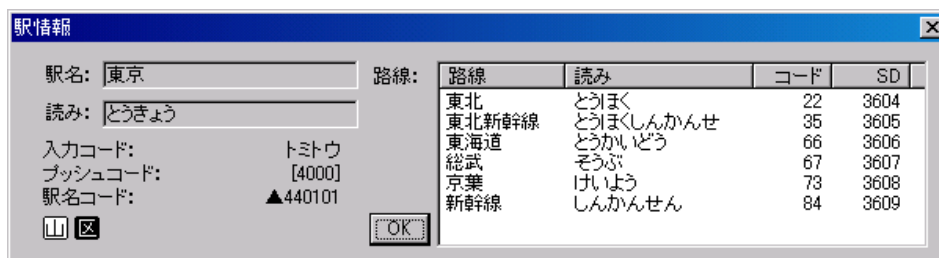


図 36 駅情報表示ダイアログ

5.4.3 路線 / 接続駅リスト

情報 (I)→ 路線 / 接続駅リスト (C) を選択すると、MARS for MS-DOS に収録されている路線と接続駅の一覧を表示します。図 37 に例を示します。

左側には路線リストが、右側には接続駅リストが表示されます。

路線リストには「No.(路線番号)」「路線名」「読み」「駅数」が路線別に記載されます。「No.」の左側のアイコンは、色別に路線の種類を表しています。路線の種類との対応は表 6 のとおりです。

接続駅リストには「No.(接続駅番号)」「接続駅名」「読み」「路線」が接続駅別に記載されます。「路線」は接続駅が接続する路線の数を示しています。「No.」の左側のアイコンは接続駅の形態を示しており、3 種類あり

路線リスト				接続駅リスト			
No.	路線名	読み	駅数	No.	路線名	読み	路線
1	江差	えさし	21	1	稚内	わっかない	1
2	海峡	かいきょう	6	2	名寄	なよろ	1
3	札幌	さっぽろ	29	3	新旭川	しんあさひかわ	2
4	北陸新幹線	ほくりくしんかんせ	6	4	旭川	あさひかわ	3
5	石勝	せきしょう	10	5	深川	ふかがわ	2
6	石勝2	せきしょう2	6	6	網走	あましり	2
7	石北	せきほく	40	7	根室	ねむろ	1
8	釧網	せんもう	27	8	東釧路	ひがしくしろ	2
9	宗谷	そうや	53	9	新得	しんとく	2
10	千歳	ちとせ	15	10	富良野	ふらの	2

図 37 路線 / 接続駅リスト

表 6 路線種類とアイコンの色

アイコン色	路線種別
黒	幹線
青	地方交通線
黄	BRT 線
赤	新幹線
灰	社線

ます。それぞれのアイコンを、図 38 から図 40 に示します。また、接続駅アイコンと接続駅形態の関係を表 7 に示します。



図 38 接続駅（端駅）



図 39 接続駅（通過駅）



図 40 接続駅（分岐駅）

5.4.4 特定運賃リスト

運賃計算区間により、特定運賃が設定されている箇所があります。MARS for MS-DOS では特定運賃の情報を MARS_SF.DAT に収録しています。本機能は、MARS_SF.DAT に収録されている特定運賃情報を一覧表示します。図 41 に例を示します。

図 41 より、路線 A の A 開始駅から A 終了駅の間を発駅とし、路線 B の B 開始駅から B 終了駅を着駅とする場合で、途中の路線数が合致する場合に特定運賃が適用されます。その際の運賃が併せて表示されています。発駅と着駅が逆の場合でも成立します。

表 7 接続駅アイコンと接続駅形態

接続駅アイコン	接続駅形態
図 38	一つの路線に所属する行き止まり駅
図 39	一つの路線に所属する通過駅
図 40	複数の路線が乗り入れる分岐駅

路線A	A開始駅	A終了駅	路線B	B開始駅	B終了駅	路線数	運賃
総武	東京	東京	総武	西船橋	西船橋	1	290
東北	上野	日暮里	成田2	(成)小林	成田	3	890
常磐	日暮里	金町	成田2	安食	成田	2	890
中央東	新宿	阿佐ヶ谷	中央東	西八王子	高尾	1	540
中央東	新宿	阿佐ヶ谷	中央東	日野	八王子	1	460
中央東	新宿	東中野	青梅	中神	拝島	2	450
根岸	桜木町	桜木町	山手1	渋谷	渋谷	3	450

図 41 特定運賃リスト

5.4.5 基準規程 114 条 2 段階補正リスト

MARS for MS-DOS では、旅客取扱基準規程 114 条により運賃の内方調整を行う必要がある場合*27、適用の予測を行い特定の運賃を表示します。しかし、予測が適用でない一部の例外が存在するため、2 段階補正リストを準備しております。本リストは MARS_JT.DAT に収録しています。本機能は、MARS_JT.DAT に収録されている 2 段階補正リスト情報を一覧表示します。図 42 に例を示します。

路線A	A開始駅	A終了駅	路線B	B開始駅	B終了駅	路線数	運賃
芸備	井原市	井原市	宇野	彦崎	宇野	3	3890
芸備	志和口	志和口	宇野	迫川	宇野	3	3890
芸備	上三田	上三田	宇野	八浜	宇野	3	3890
芸備	中三田	中三田	宇野	宇野	宇野	3	3890
芸備	上三田	井原市	本四備讃	児島	児島	4	3700
芸備	志和口	井原市	本四備讃	上の町	上の町	4	3700
芸備	井原市	井原市	本四備讃	木見	木見	4	3700

経由: 芸備, [広島], 山陽, [岡山], 宇野

図 42 基準規程 114 条 2 段階補正リスト

図 42 は、図 41 に示す特定運賃リストの形式に経由が記載された形式となっております。特定運賃リストの際の適用条件に加え、途中経路が「経由:」に示された経路と合致する場合、2 段階補正リストは適用されます。

*27 着駅を遠方の駅にした場合、旅客営業規則 86 条の適用により運賃計算距離が短くなる等の理由で運賃が安くなる場合等

5.5 TripMeter(T)

TripMeter については、第 6 章で詳細に触れます。

5.6 オプション (O)

オプションについては、第 8 章で詳細に触れます。

5.7 ヘルプ (H)

5.7.1 バージョン

MDView のバージョン表示を行うダイアログを表示します。

6 TripMeter

6.1 TripMeter とは

MDView には、ある駅を起点にして現在選択されている駅までの営業キロおよび換算キロを求める機能が付いています。途中、乗換駅などで路線を変更した場合も距離の測定は継続されます。つまり、ユーザによって任意の経路の距離を測定することができます。これは自動車などについている TripMeter のようなものです。ただし、経路を戻るとその分測定された距離も戻っていきます。なお、経路が1周するなどして同じ路線を複数回通っている場合でも、その距離は通った回数分含まれます。

6.2 TripMeter の設定

メイン情報表示部で駅が選択されているとき、Space を押下すると、選択されている駅を起点に TripMeter がセットされます。図 43 に 仙台 で TripMeter を設定した状態を示します。

TripMeter 情報表示部の数字のアイコンが黄色になっており、隣のテキストボックスには起点駅である 仙台 が表示されています。また、その下には「営：」「換：」という表示がありどちらも 0.0km となっています。これはそれぞれ「営業キロ」「換算キロ」を示します。また、TripMeter 経由路線表示部には、現在の路線である 東北 が表示されています。

駅名	読み	営業	換算	SD	CS
槻木	つきのき	3277	3277	3502	
岩沼	いわぬま	3342	3342	1172	71
館腰	たてこし	3379	3379	3348	
名取	なとり	3414	3414	3878	
南仙台	みなみせんだい...	3441	3441	5022	
長町	ながまち	3473	3473	3851	
仙台	せんだい	3518	3518	3169	06
東仙台	ひがしせんだい...	3558	3558	4390	
岩切	いわきり	3599	3599	1147	53
陸前山王	りくぜんさん...	3622	3622	5492	
国府多賀城	こくふたがじよ	3635	3635	2479	
塩釜	しおがま	3652	3652	2757	
松島	まつしま	3752	3752	4874	

図 43 TripMeter 設定

ここで、 を押下し、東仙台へ移動します。すると、図 44 に示す図のように、TripMeter 情報表示部の「営：」「換：」の距離が変わります。ここから、仙台から東仙台までの営業キロおよび換算キロは 4.0km であることがわかります*28。

さらに、 を押下し岩切へ移動します。ここからは東北線の利府支線つまり MARS for MS-DOS で言う東北 3 が分岐しています。乗換を行うため、 を押下し、乗換路線情報表示部へ移動します。さらに、 を押下し東北 3 を選択すると乗り換え完了です。 を押下し、メイン情報表示部に戻ります。図 45 に乗換後の状態を示します。TripMeter 路線情報表示部が東北に加えて東北 3 が表示されてことがわかります。

このように次々と路線を乗り換えることで TripMeter 起点設定駅からの距離を知ることができます。

*28 東北線は幹線であるため、運賃計算に用いられる距離 = 営業キロです。そのため、厳密に言えば換算キロの表示は必要がないのですが、作りこみをサボり常時表示しています。



図 44 TripMeter 設定後の移動

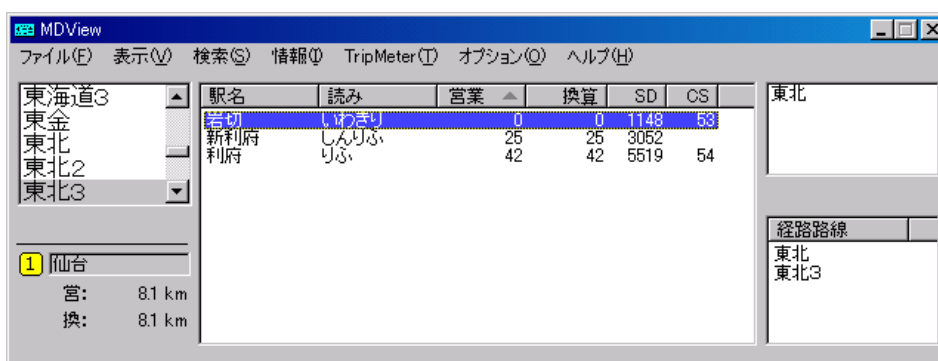


図 45 TripMeter 設定後の乗換

6.3 TripMeter の再設定

TripMeter が設定されているとき、メイン情報表示部で space を押下すると選択されている駅を起点とする TripMeter が再設定されます。つまり TripMeter がリセットされます。

6.4 TripMeter の終了

TripMeter が設定されているとき、Ctrl + space を押下すると TripMeter が終了します。また、路線情報表示部にて選択されている路線を変更した場合も自動的に TripMeter は終了します。

6.5 TripMeter と検索

TripMeter 設定時に「駅検索」「路線検索」を実施し他の駅や他の路線に移動した場合は自動的に TripMeter は解除されます。「路線内検索」「乗換検索」の場合は、TripMeter は継続します。

6.6 TripMeter 表示

TripMeter が設定されている状態、かつメイン情報表示部で Ctrl + Enter を押下することで TripMeter 表示ダイアログが表示されます。図 46 にダイアログの例を示します。



図 46 TripMeter 表示ダイアログ

TripMeter 表示ダイアログには複数のボタンが配置されており、それぞれに機能を有しています。それぞれの機能について解説します。

6.6.1 Clip

TripMeter 表示ダイアログの「Clip(L)」ボタンが相当します。この機能は、TripMeter に設定した経路をクリップボードにコピーする機能です。クリップボードからテキストエディタなどに貼り付けを行うことで利用することができます。クリップボードには以下のような形式で保管されます。

 [区] 東京都区内 和歌山

経 由：東海道，関西，阪和

J R 線営業キロ： 598.7km

普通片道運賃 : 大人 9030 円 小児 4510 円 学割 7220 円

普通往復運賃 : 大人 18060 円 小児 9020 円 学割 14440 円

普通片道乗車券の有効期限は 4 日です。

東京 和歌山

路線	乗換	営業キロ	換算キロ
東海道	名古屋	366.0	366.0
関西	天王寺	537.4	537.4
阪和	和歌山	598.7	598.7

なお、下部に表示される経路は運賃計算経路ではなく、TripMeter に設定された通りです。

6.6.2 運賃経路

TripMeter 表示ダイアログの「運賃経路 (F)」ボタンが相当します。TripMeter に設定した経路に対して、運賃計算上の経路に変換した結果をダイアログで表示します。ダイアログは第 6.7.1 項で説明する「運賃表示ダイアログ」と同じ形式です。

6.6.3 TripMeter 修正

TripMeter 表示ダイアログの「リセット (O)」、「逆転 (R)」、「戻る (B)」、「再設定 (A)」ボタンが相当します。TripMeter 表示ダイアログが表示しているときに上下の移動キーを押下すると、右半分に表示されている路線および接続駅が選択状態になります。図 47 に接続駅を選択した状態を示します。

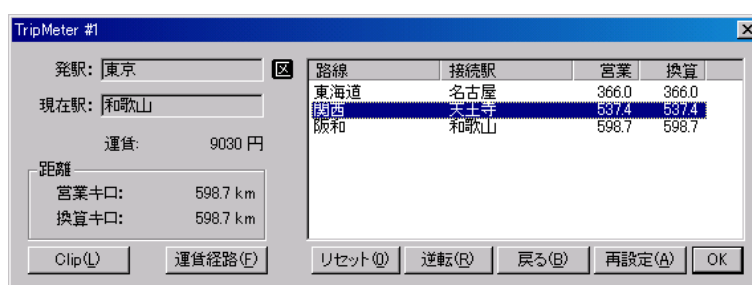


図 47 TripMeter 表示ダイアログの接続駅選択

東京 から和歌山 まで、東海道、関西、阪和 経由を通っているときで、接続駅を天王寺 としている状態で各機能のボタンを押下すると TripMeter の状態が変更します。表 8 に機能別に変更後の発駅と現時駅の関係を示します。

表 8 TripMeter 修正

機能	発駅	現在駅	経由
リセット (O)	東京	東京	東海道
逆転 (R)	和歌山	東京	阪和、関西、東海道
戻る (B)	東京	天王寺	東海道、関西
再設定 (A)	天王寺	和歌山	阪和

なお、「戻る (B)」および「再設定 (A)」は路線及び接続駅の選択が無い状態では機能しません。「リセット (O)」および「逆転 (R)」に関しては、路線および接続駅の有無に関わらず機能します。

6.7 運賃表示

TripMeter が設定されているとき、その経路での運賃を自動的に計算し表示する機能を用意しています。運賃表示には、TripMeter 情報表示部の上部に運賃を表示する方法と、メイン情報部に表示される全駅の運賃計算結果を表示する 2 つの方法を準備しています。

TripMeter 設定時に ! を押下すると、TripMeter 情報表示部に「運賃：」が表示され、運賃が表示されるようになります。この運賃計算は TripMeter の距離が変更されるたびに再計算され更新します。図 48 に 仙台

から 松島 で運賃計算を行った例を示します。

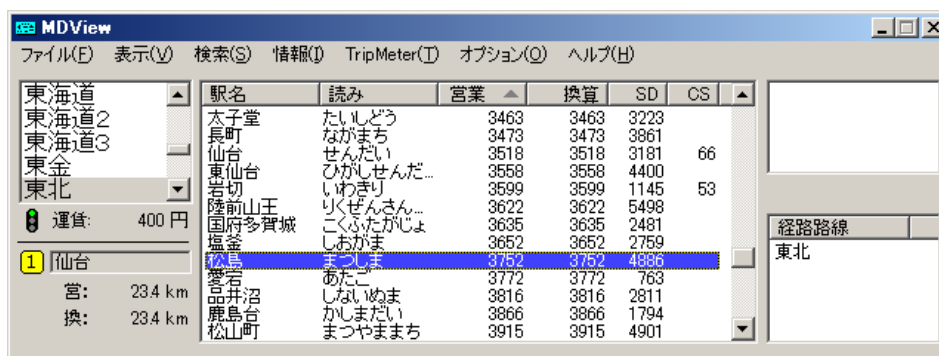


図 48 TripMeter での運賃表示

「運賃：」表示の左側に信号機のアイコンが表示されますが、これは片道乗車券の発売条件を満たすかの状況を示しています。

表 9 運賃表示と信号機アイコンの状態

信号機アイコンの灯火	対応図番号	運賃計算可否
なし	図 49	TripMeter 設定なし
緑	図 50	運賃計算可能
赤	図 51	運賃計算不可
黄	図 52	営業キロ 0km

注意：運賃計算は各種の特例にもできるだけ対応するようにはしていますが、絶対ではありません。よって、ここで得られた運賃情報は参考程度とと考えてください。

6.7.1 TripMeter 運賃経路表示

MDView にて運賃計算を行う場合、実際に通った経路と運賃計算に用いる経路が異なる場合があります。そこで、どのような経路で運賃計算をしたかを表示するための機能を用意しています。TripMeter 設定時に # を押下すると、運賃表示を行うダイアログが表示されます。ここで示す経路は、運賃計算に用いた経路で表示されます。図 53 に 岡山 から 徳山 まで 山陽 経路で TripMeter を設定したときの運賃表示ダイアログを示します。この区間のうち 岩国 から 榑ヶ浜 を 山陽 経路で通過する場合、岩徳 に置き換えられる特例があります。^{*29}そのため、運賃計算に用いた経路はこの特例を反映しています。^{*30}

このダイアログには、「経路クリップ (L)」ボタンがあります。このボタンを押下すると、運賃計算結果をクリップボードにコピーします。クリップボードからテキストエディタなどにコピーすることで、内容を利用することができます。

先ほどのダイアログで示した区間の運賃計算結果の例を示します。クリップボードには、以下の形式でデータが保管されています。発駅、着駅、経路、営業キロ、運賃計算キロ、運賃、運賃計算経路としての発駅および

*29 旅客営業規則第 69 条

*30 その他、新幹線と在来線の置き換えや、特定都区市内による区間内の運賃計算経路の変更に対応しています。



図 49 TripMeter 設定なし



図 50 運賃計算可能



図 51 運賃計算不可



図 52 営業キロ 0km

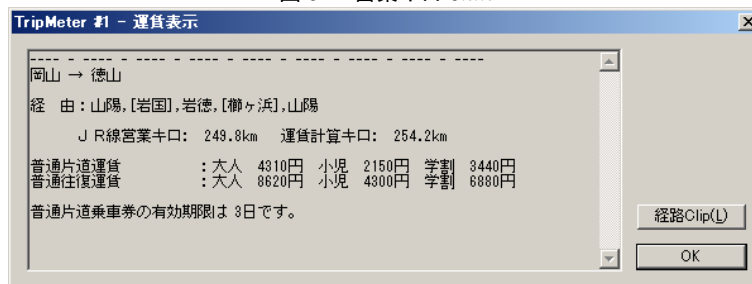


図 53 運賃表示ダイアログ

び着駅、路線、乗換駅、区間の営業キロおよび換算キロが含まれます*31。運賃計算経路の営業キロおよび換算キロのうち () の中に表示されている距離は、その行の路線内での距離を示しています。

岡山 徳山

経 由：山陽, [岩国], 岩徳, [櫛ヶ浜], 山陽

J R 線営業キロ： 249.8km 運賃計算キロ： 254.2km

普通片道運賃	：大人	4310 円	小児	2150 円	学割	3440 円
普通往復運賃	：大人	8620 円	小児	4300 円	学割	6880 円

*31 表示の前半部分は MARS for MS-DOS の運賃計算結果をファイルに保管したときの形式に近くなっています。大都市近郊区間内で最安運賃以外の経路をとるときに最安経路を表示する機能は実装していません。大都市近郊区間内の最安運賃の情報を調べるためには MARS for MS-DOS を利用したほうがよいでしょう。MDView の運賃計算機能は簡易的なものです。

普通片道乗車券の有効期限は 3 日です。

<運賃計算経路>

岡山 徳山

路線	乗換		営業キロ		換算キロ
山陽	岩国	(202.7)	202.7	(202.7)	202.7
岩徳	櫛ヶ浜	(43.7)	246.4	(48.1)	250.8
山陽	徳山	(3.4)	249.8	(3.4)	254.2

MARS_DKK.DAT を読み込んでおり大都市近郊区間最安検索機能が有効となっているとき^{*32}、同一大都市近郊区間相互発着の区間でさらに安価な運賃の区間が存在するかを検索し、該当区間が存在する場合は運賃表示ダイアログに表示します。

例として、以下の区間の運賃計算を行います。

発駅： 横浜、着駅水戸、経由： 東海道，東北，水戸，常磐

上記区間は全区間が東京近郊区間に含まれています。営業キロは 176.1km です。運賃は 2940 円ですが、旅客営業規則 157 条第 2 項により 東海道，東北，[日暮里]，常磐 経由の営業キロ 149.9km の乗車券でも同区間を乗車することができます。この場合、運賃は 2520 円です。このようにさらに安い運賃区間が存在する場合は運賃表示ダイアログに以下のような注記を表示します。

横浜 水戸

経 由：東海道，東北，水戸，常磐

J R 線営業キロ： 176.1km

普通片道運賃 : 大人 2940 円 小児 1470 円 学割 2350 円

普通往復運賃 : 大人 5880 円 小児 2940 円 学割 4700 円

普通片道乗車券の有効期限は 1 日です。

大都市近郊区間内相互発着なので、以下の経路の乗車券でも乗車できます。

経由： 東海道，[東京]，東北，[日暮里]，常磐

営業キロ：149.9km 運賃： 2520 円

^{*32} MARS_DKK.DAT が MDView と同じフォルダに存在する場合、MDView の起動時、自動的に MARS_DKK.DAT を読み込み大都市近郊区間最安検索機能を有効にします。

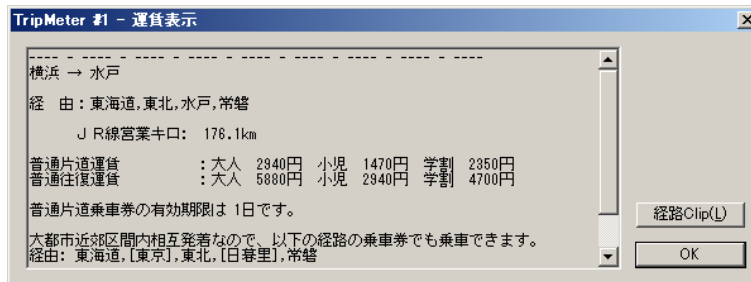


図 54 大都市近郊区間相互発着の最安検索情報の表示

ここまでの説明は、TripMeter 表示部の上部に現在の TripMeter の状況に対応した運賃を表示する方法について説明しました。それに対し、MDView は TripMeter 利用時に、メイン情報部に表示される各駅までの運賃を一括して計算し表示する機能を有しています。メニューから「TripMeter(T)」「運賃表示(F)」「経路上運賃表示(R)」を選択してください。図 55 に経路上に運賃表示を行った例を示します。TripMeter に連動していることから、現在選択されている駅の周辺駅までの運賃を一括して知ることが出来ます。

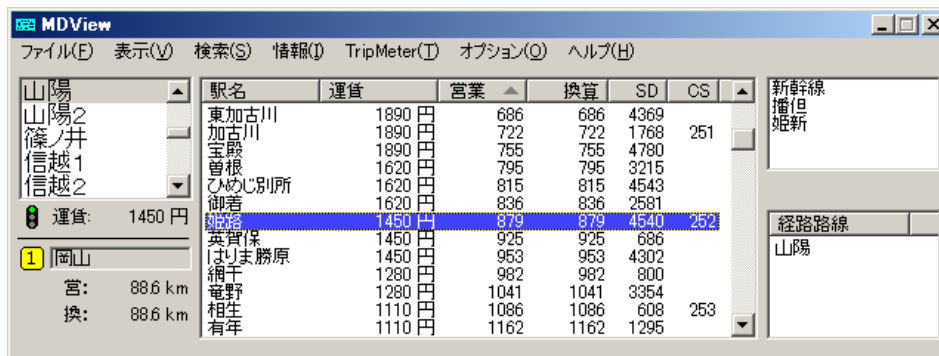


図 55 TripMeter での経路上運賃表示

6.7.2 単駅指定

なんらかの事情により、旅客営業規則 86 条等^{*33}を適用せず、発駅または着駅を単駅表示することが必要な場合があるかもしれません。運賃計算上、必然性がある場合はなるべく自動的に適用するようにしていますが、単駅指定を強制するための機能を準備しています。当然、使うべきでない場所で利用すると正しい運賃計算が行われない可能性があります。MDView メインのウィンドウにて < を押下すると発駅に、> を押下すると着駅に単駅指定されます。TripMeter 情報表示部に「発単」と表示されているときが発駅に単駅指定がされているとき、「着単」と表示されているときが着駅に単駅指定がされているときです。両方ともトグル動作なので、単駅指定がされているときに同じ操作をすると単駅指定は解除されます。図 56 に単駅指定を行った状態を示します。

^{*33} 旅客営業規則 86 条は、特定都区市内制度。発駅や着駅が駅名ではなく [区] 東京都区内のようになる制度です。同様のものに旅客営業規則 87 条 ([山] 東京山手線内) や旅客営業規則 88 条 (大阪・新大阪) があります。

駅名	読み	営業	換算	SD	CS	運賃
槻木	つきのき	3277	3277	3502		
岩沼	いわぬま	3342	3342	1172	71	
館腰	たてこし	3379	3379	3348		
名取	なとり	3414	3414	3878		
南仙台	みなみせんだい	3441	3441	5022		
長町	ながまち	3473	3473	3851		
仙台	せんだい	3518	3518	3169	66	
東仙台	ひがしせんだい	3558	3558	4390		
岩切	いわきり	3599	3599	1147	53	
陸前山王	りくぜんさん	3622	3622	5492		
国府多賀城	くにふたがじよ	3635	3635	2479		
塩釜	しおがま	3652	3652	2757		
松島	まつしま	3752	3752	4874		

図 56 単駅指定

6.8 TripMeter 変更

TripMeter は5つ準備されており、それぞれ別の情報を保持することができます。TripMeter 情報表示部の数字のアイコンが現在利用している TripMeter を示しています。利用する TripMeter を変更する場合、Ctrl を押しながら 1~5 のいずれかのキーを押下します。例えば Ctrl + 2 で2番の TripMeter に変更したことになります。

TripMeter を変更したとき、変更先の TripMeter が設定状態だった場合は最後の選択状態駅に移動します。TripMeter の情報もそのままなので、引き続き利用することもできます。

6.8.1 TripMeterMap

複数の TripMeter の情報を見るために、TripMeter Map という名前の機能を用意しています。Ctrl + Y を押下することにより、TripMeter Map ダイアログが表示されます。図 57 に TripMeter Map ダイアログの例を示します。

No.	発駅	現在駅	営業	換算	運賃
1	---	---	---	---	---
2	仙台	盛岡	183.5	183.5	3260円
3	静岡	名古屋	185.8	185.8	3260円
4	松島	山口	187.2	183.5	2520円
5	---	---	---	---	---

図 57 TripMeterMap

および で TripMeter の選択を移動することができます。また、数字の 1 から 5 のうち TripMeter の番号に対応するキーを押下することで、直接選択状態を移動することができます。選択状態を変更したら、Enter を押下することで、選択状態の TripMeter に変更することができます。

さらに TripMeterMap には複数の機能が準備されています。ダイアログ下部に設置しているボタンがそれぞれ対応しています。

「Clip(C)」は、TripMeterMap で選択状態の TripMeter が設定状態にあるとき、その区間の経路経路について 6.6.1 節で説明する機能と同等にクリップボードへ保管します。

「AllClip(A)」は、現在設定状態にある TripMeter について全部まとめて「Clip(C)」を行います。

「運賃経路 (E)」は、選択状態の TripMeter が設定状態にあるとき、6.7.1 節で説明する運賃経路表示ダイアログを表示します。なお、#を押下しても同様の効果を得られます。

「コピー (C)」は、選択状態の TripMeter が選択状態にあるとき、その内容を一時的に記憶します。記憶されている情報は、「貼付 (P)」で他の TripMeter に書き込むことができます。このときすでに設定状態の TripMeter に「貼付 (P)」を行った場合上書きされるので注意してください。なお、「コピー (C)」は Ctrl + C で、「貼付 (P)」は Ctrl + V で同様の効果が得られます。

「削除 (D)」は、選択状態の TripMeter が設定状態にあるとき、その TripMeter を解除します。なお、Del キーでも同様の効果が得られます。

6.9 TripMeter 変換

6.9.1 新幹線・特定区間変換

MDView の TripMeter は、入力された経路の営業キロや換算キロを算出します。運賃は、いくつかの規則を適用し、乗車経路を運賃計算経路に置き換えてから営業キロ等の距離をもって計算します。MDView でも、TripMeter の経路を運賃計算経路に変換し、得られた営業キロ等で運賃を計算します。しかし、TripMeter の入力経路自体は置き換えません。

メニューから「TripMeter(T)」→「TripMeter 変換 (C)」→「新幹線・特定区間変換 (I)」を選択すると、TripMeter の経路を運賃計算経路に変換します。運賃計算経路の変換に影響を与える規則は、以下のとおりです。

- 旅客営業規則第 16 条の 2^{*34}
- 旅客営業規則第 69 条^{*35}
- 旅客営業規則第 70 条^{*36}

6.10 TripMeterTrace

TripMeterTrace 機能は、TripMeter を設定した後に通過した駅を一覧するための機能です。TripMeter が設定されているときに、メインのウィンドウで@を押下すると TripMeterTrace ダイアログが表示されます。図 58 に 東京 から 和歌山 まで、東海道、関西、阪和 経由での例を示します。

TripMeterTrace では、経由した駅の駅名、路線名、特定都区市内適用駅の場合の記号、発駅からの営業キロ / 換算キロ、現在駅からの営業キロ / 換算キロ (逆営業 / 逆換算)、CS 設定駅の場合は CS コードを表示します。

このダイアログでは通常の移動のほか、前 / 次の路線へ移動するための方法が準備されています。 を押下すると前の路線へ、 を押下すると次の路線へ移動します。

TripMeterTrace にはいくつかの機能を準備しています。「分割 (S)」「分割検索 (R)」「複数分割 (M)」がそれぞれの機能に対応します。

^{*34} 新幹線を在来線に置き換える

^{*35} 山科 - 近江塩津 間が 東海道、北陸 経由の場合、湖西 に置き換える等、全国で 9 箇所に設定

^{*36} 山手線近辺の特定区間を最短区間に置き換える

駅	路線名	特定	営業	逆営業	換算	逆換算	CS
東京	東海道	[山]区	0.0	598.7	0.0	598.7	148
有楽町		[山]区	0.8	597.9	0.8	597.9	
新橋		[山]区	1.9	596.8	1.9	596.8	
浜松町		[山]区	3.1	595.6	3.1	595.6	
田町		[山]区	4.6	594.1	4.6	594.1	
品川		[山]区	6.8	591.9	6.8	591.9	153
大井町		区	9.2	589.5	9.2	589.5	
大森		区	11.4	587.3	11.4	587.3	

図 58 TripMeterTrace

「分割 (S)」は、TripMeterTrace で選択されている駅を分割点として、発駅から分割点駅までの運賃と分割点駅から現在駅までの運賃を計算します。計算結果はダイアログで表示されます。図 59 に名古屋で分割した例を示します。

全区間:	発駅	着駅	運賃	累計運賃
	区]東京都区内	和歌山	9030 円	9030 円
分割:	発駅	着駅	運賃	累計運賃
	区]東京都区内	[名]名古屋市内	6090 円	6090 円
	[名]名古屋市内	和歌山	3890 円	9980 円

図 59 TripMeterTrace 名古屋分割

「分割検索 (R)」は、「分割 (S)」を経路上のすべての駅で分割を試し、合計の運賃が最も安くなる分割点を検索します。図 60 に分割検索を行った例を示します。結果から、川崎で分割するのが最も安くなるのがわかります。なお、分割をしなかった場合の運賃よりも安い合計運賃が見つからない場合は、分割をしなかった場合の運賃を結果として表示します。

全区間:	発駅	着駅	運賃	累計運賃
	区]東京都区内	和歌山	9030 円	9030 円
分割:	発駅	着駅	運賃	累計運賃
	東京	川崎	290 円	290 円
	[浜]横浜市内	和歌山	8720 円	9010 円

図 60 TripMeterTrace 分割検索結果

「複数分割 (M)」は、分割区間を複数とするときの最安運賃を検索する機能です。「複数分割 (M)」ボタンを押下すると、別のダイアログが表示されます。図 61 にダイアログを示します。

詳細は 6.11 節で述べます。



図 61 TripMeterTrace 複数分割ダイアログ

6.11 TripMeter MultiSplit

TripMeter MultiSplit は、路線の複数分割を行い、分割購入による最安運賃を検索するための機能です。TripMeter MultiSplit は図 61 に示す複数分割ダイアログから行います。

複数分割ダイアログは、最大分割区間数を指定して検索を行います。右側中央部に最大分割数が表示されています。

ここで「+(P)」ボタンを押下すると最大分割数を1つ増やすことができます。また、「-(M)」ボタンを押下すると、最大分割数を1つ減らすことができます。さらに「最多(X)」ボタンを押下すると、分割可能な最大に変更することができます。「最少(I)」ボタンを押下すると、分割可能な最小数に変更することができます。図 62 に最大分割数に変更したダイアログを示します。



図 62 TripMeterTrace 複数分割 最多分割

検索を開始するには、「検索開始(S)」ボタンを押下します。すると、検索が開始します。途中で検索をやめる場合は、「検索停止(T)」ボタンを押下してください。

検索が完了すると、結果が表示されます。図 63 に複数分割結果表示を示します。最大の分割数以下で分割したとき、合計の運賃がもっとも安くなる組み合わせが表示されます。このとき、同じ合計運賃の場合、なるべく分割数が少なくなるように考慮しています。

検索が完了後、「Clip(L)」ボタンを押下すると、分割結果をクリップボードにコピーすることができます。テキストエディタなどに貼り付けてご利用ください。保管される形式は以下の通りです。



図 63 TripMeterTrace 複数分割結果表示

東京 和歌山

経 由：東海道，関西，阪和

=====

発駅	着駅	運賃	累計運賃	区分
[区] 東京都区内	和歌山	9030	9030	
東京	川崎	290	290	
[浜] 横浜市内	大和小泉	7350	7640	
大和小泉	高井田	210	7850	
高井田	天王寺	210	8060	
天王寺	和歌山	830	8890	

また、TripMeter MultiSplit では、学割証を最大 2 枚まで利用した場合の最安分割運賃を検索可能です。図 61 の複数分割ダイアログの左下に、「最多学割枚数」の設定が存在します。最多学割枚数の設定は、名前のとおり最安分割運賃を検索する際に学割証を利用する最大枚数を指定し、「なし」「1 枚」「2 枚」から選択することが出来ます。なお、Alt + 0、Alt + 1、Alt + 2 で最多学割枚数の設定をそれぞれ「なし」「1 枚」「2 枚」に変更することが出来ます。

図 64 に 東京 から 名古屋 まで 東海道 経由の経路を、最多学割枚数 2 枚、最多分割数最多で検索した結果を示します。

全区間表示の下に「学」と表記されたアイコンが表示されていますが、これは、同区間で学割運賃を算出することが出来ることを示しています。アイコンの背景色が白の場合は学割適用が無い状態です。このとき、S を押下するか「学」アイコンをクリックすると、アイコンの背景色が黄色になります。アイコンの背景色が黄色の場合は、学割が適用された場合の運賃を表記していることを示しています。図 65 に学割表示が行われた



図 64 複数分割ダイアログ 東京 - 名古屋

場合の表記の例を示します。

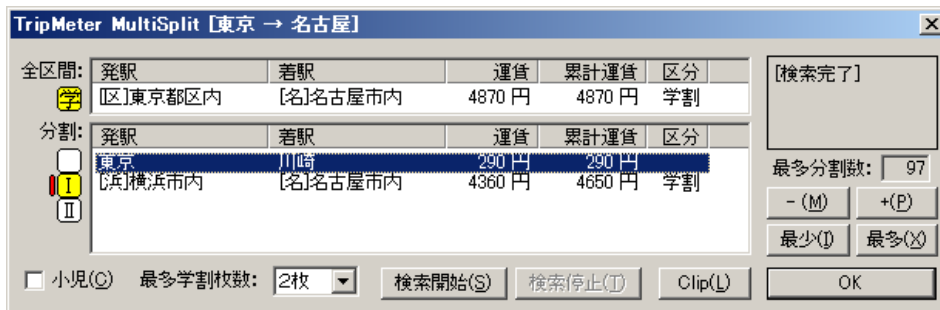


図 65 複数分割ダイアログ 学割表示

分割表示の右側にアイコンが表示されています。それぞれの意味は図 66 から図 68 までのアイコンが表 10 に対応します。



図 66 分割 (学割なし)



図 67 分割 (学割 1 枚)



図 68 分割 (学割 2 枚)

アイコンの背景色が黄色となっているものが、現在の状況を示しています。また、分割表示アイコンの右側に赤色のバーが表示されている箇所が学割状況全体で最安の組み合わせであることを示しています。

表 10 分割アイコンと状況

分割アイコン	状況
図 66	学割を利用しない
図 67	学割乗車券を 1 枚含む
図 68	学割乗車券を 2 枚含む

分割表示アイコンをクリックすると分割の表示を変更することができます。さらに、0、1、2 を押下すると、それぞれ「学割なし」「学割 1 枚」「学割 2 枚」の分割結果に表示を変更することができます。図 69 に、学割を利用しない表示に変更した状況を示します。

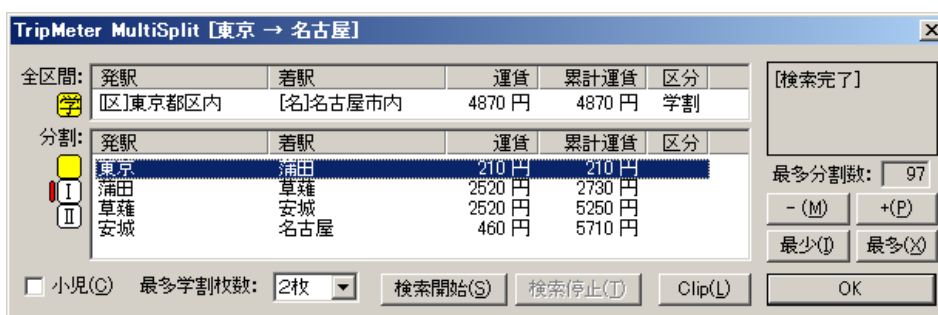


図 69 複数分割ダイアログ 学割なし表示

さらに、左下の「小児 (C)」のチェックボックスをチェックすると小児運賃で分割を検索することができます。チェックボックスをチェックすると、全体の運賃表示が小児運賃を表示します。

この状態で「検索開始 (S)」ボタンを押下すると小児運賃を対象として分割を検索し、結果を表示します。



図 70 複数分割ダイアログ 小児運賃分割結果

7 経路入力モード

7.1 経路入力モードとは

第6章では TripMeter について説明しました。TripMeter は、MDView 上で駅を選び、移動を繰り返して駅間の距離を測るためのものです。測定した距離をもとに運賃計算も行っています。この TripMeter の経路を MARS for MS-DOS のように入力する機能が経路入力モードです。

MDView 本体のメニューから「TripMeter(T)」、「TripMeter 入力(M)」、「経路入力モード(M)」を選択するか、^を押下することで図 71 に示すダイアログが表示されます。

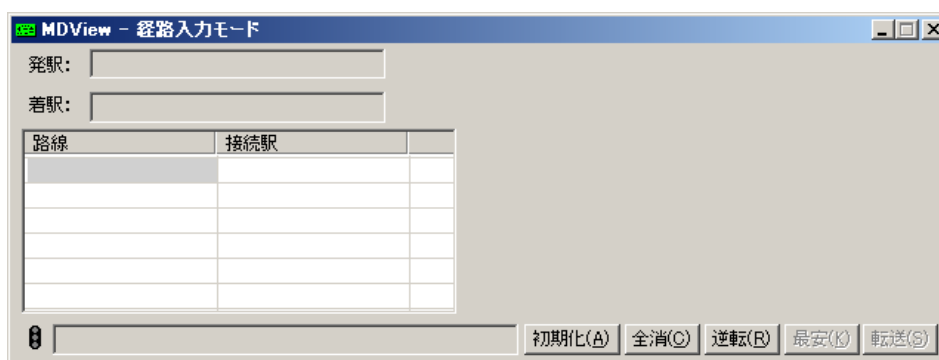


図 71 経路入力モード ダイアログ

上記ダイアログから発駅、着駅、経路等を指定し、情報を確定した後に経路情報を MDView 本体へ転送することができます。

7.2 経路入力モードの制約事項

経路入力モードは、MARS for MS-DOS のように入力を行うことができますが、MARS for MS-DOS と比較して以下の制約事項があります。

- 各種エイリアスを利用することができません
- 履歴入力機能を利用することができません
- 各種特例における経路の置換えを行いません（ただし、運賃計算上は各種特例による経路の置換えを行い、置換え結果に基づき運賃を算出します。）
- 駅名、路線名、接続駅名の入力にローマ字入力を利用することができません
- Vz ライクなキーバインドによる移動を利用することができません
- MARS for MS-DOS の各種起動時オプションに対応していません

また、H/PC(ARM) 版は、経路入力モードに対応していません。

7.3 経路入力モードの各部の名称

図 72 に、経路入力モードのダイアログの説明図を示します。

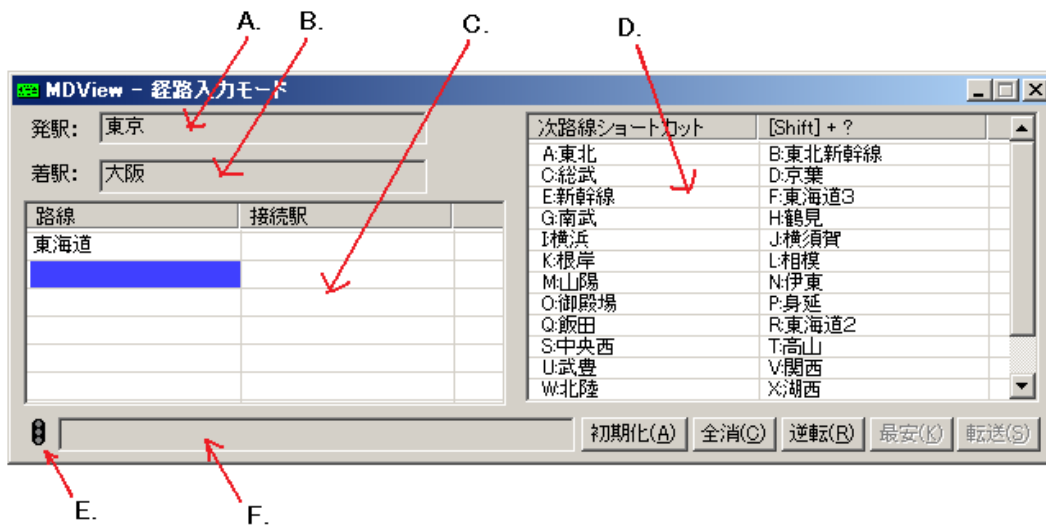


図 72 経路入力モード 各部の名称

経路入力モードダイアログは以下の部分と各種ボタンから成ります。

- A 発駅入力部
- B 着駅入力部
- C 経路情報入力部
- D 情報選択部
- E 運賃計算結果アイコン
- F 情報表示部

次項以降で、各部の説明を行います。

7.3.1 発駅入力部

TripMeter の基点となる発駅を入力します。発駅入力部にフォーカスがあるときは、自動的に IME が On になります。そのまま駅名の読みを変換せず、ひらがなのまま入力します。入力後、Enter を押下すると、前方一致検索が行われます。また、Tab を押下すると、完全一致検索が行われます。

駅の候補が存在しない場合、情報表示部に「再考 該当駅なし」と表示され再考を促します。図 73 に該当駅なしの状態を示します。

該当駅なしとなった場合は、読みを見直して再度検索してください。

該当駅が一つの場合、そのまま確定されちゃ着駅入力部へ移動します。

該当駅が複数ある場合は、情報選択部に候補が表示されます。適切な駅を選択してください。図 74 に複数該当駅が存在する場合の例を示します。

発駅がすでに設定されている際に、F1 または ← を押下すると発駅を編集することができます。

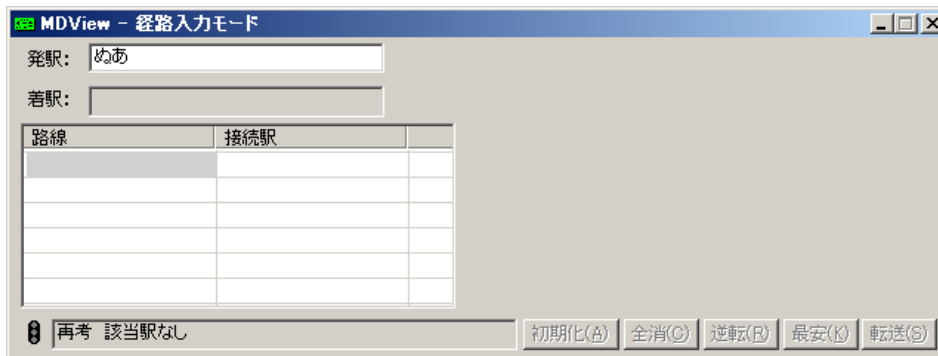


図 73 該当駅なし

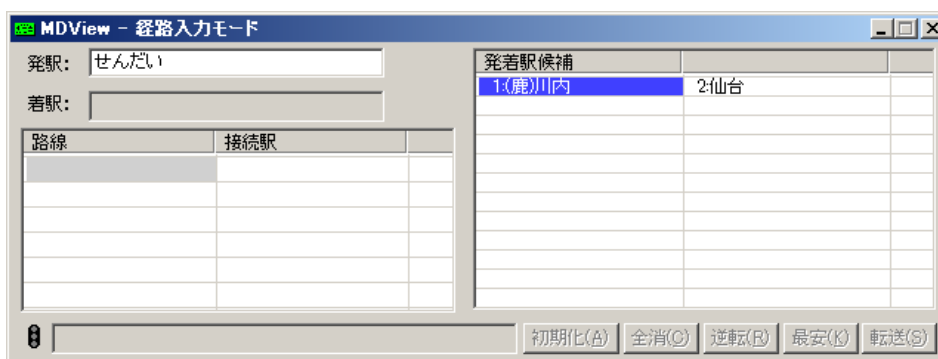


図 74 複数の該当駅

7.3.2 着駅入力部

前項に準じ、着駅を入力します。着駅を確定すると、次項の経路情報入力部へ移動します。また、Esc を押下すると、発駅入力部に戻ります。

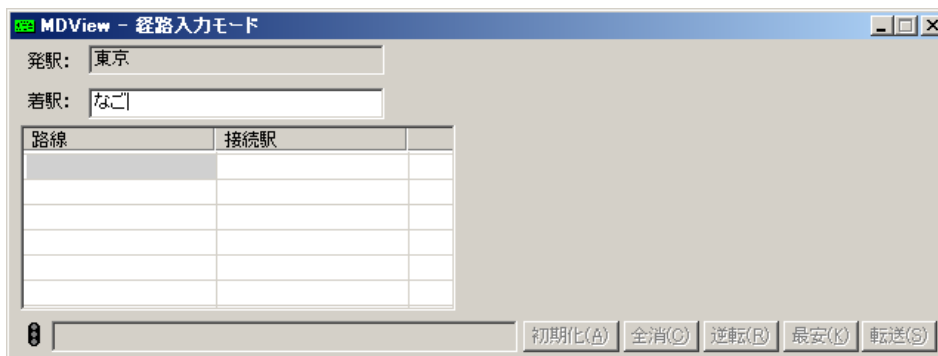


図 75 着駅入力部

7.3.3 経路情報入力部

経路情報入力部は、発駅と着駅の間経路を指定します。左側の列に路線、右側の列に接続駅を入力します。

路線や接続駅を入力する際は、入力箇所へ↑、↓、←、→で移動し、路線名/接続駅名の入力を開始します。入力開始すると自動的に編集モードに入り、IMEがOnになります。路線名/接続駅名は、発駅や着駅の入力と同様、ひらがなで入力します。入力後、Enterを押下すると、対象を前方一致検索します。また、Tabを押下すると、対象を完全一致検索します。図76に、路線の入力の例を示します。

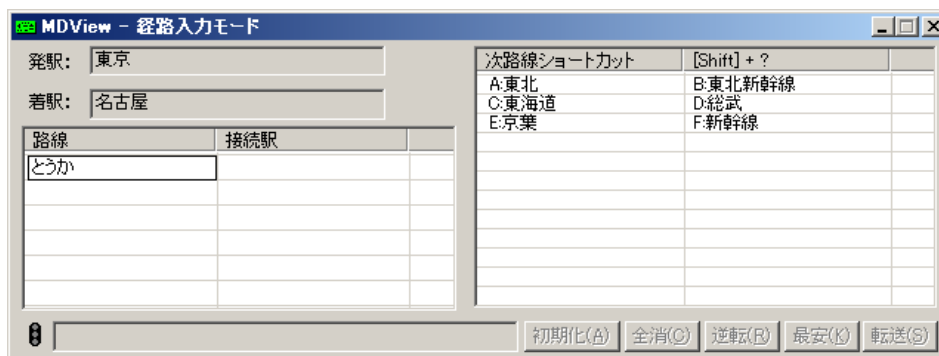


図 76 路線の入力

該当の対象が複数存在する場合は、情報選択部に候補が表示されます。図77に複数の路線の選択の例を示します。情報選択部で確定をすると、対象が表記されます。



図 77 複数の路線候補

接続駅も路線と同様に入力することができます。図78に接続駅入力の例を示します。経路情報入力部では、表11に示す操作を行うことができます。

表 11 経路情報入力部とキー入力

キー入力	効果
Ins、Ctrl + I	行の挿入
Del	入力情報の消去
BackSpace	行の削除

路線情報入力部で、路線/接続駅を入力せずEnterを押下すると、運賃計算を開始します。詳細は、7.4 運賃計算で述べます。

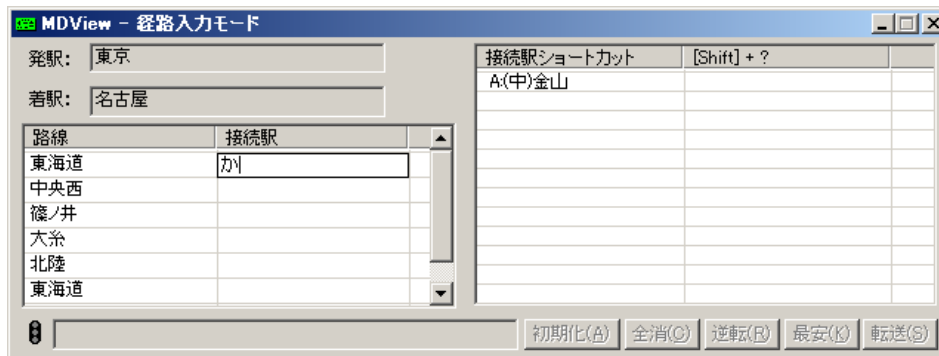


図 78 接続駅の入力

7.3.4 情報選択部

情報選択部は、発駅や着駅、路線や接続駅、7.6.7 で示す経路の補完に候補が複数ある場合の選択肢を表示します。また、7.6.5 で示す次路線 / 接続駅ショートカットの表示も行います。

選択肢へは、↑、↓、←、→ で移動し、Enter で確定します。または、選択肢をダブルクリックしても確定することができます。

7.3.5 運賃計算結果アイコン

7.4 で示す運賃計算の結果、発駅から着駅までの経路が確定した場合運賃計算結果アイコンの灯火が灯ります。アイコンの灯火の意味は、6.7 で示す運賃表示の中の表 9 を参照願います。

7.3.6 情報表示部

情報表示部は、各種エラー状況、運賃計算結果等の情報を表示します。

7.4 運賃計算

7.4.1 運賃計算の概要

経路入力モードでは、MARS for MS-DOS と同様に発駅、着駅、運賃計算経路を入力することにより運賃を計算することができます。発駅入力部で発駅を、着駅入力部で着駅を指定し、経路情報入力部に途中経路の路線と接続駅を入力します。入力が完了した後、経路情報入力部で Enter を押下すると運賃を計算します。運賃を計算が出来る場合は、運賃計算結果を情報表示部に表示します。図 79 に、運賃計算結果表示の例を示します。

図 79 に示すとおり、運賃を計算できた場合は、運賃計算結果アイコンの信号機アイコンの灯火が灯ります。灯火は、運賃が計算できた場合は緑色が灯り、経路の重複等の運賃計算にエラーがある場合は赤色が灯ります。また、営業キロが 0km の場合は黄色が灯ります。さらに、発駅から着駅までの間の経路が確定できない場合は、灯火が灯りません。運賃計算結果アイコンの灯火が灯っているときは、7.5 で示す経路の転送の機能を利用することができます。よって、経路の転送は、運賃計算が出来ない場合でも、発駅から着駅までの経路が確定できれば利用できます。

なお、大都市近郊区間最安検索機能が有効になっているとき、かつ、運賃計算経路が大都市近郊区間内相互



図 79 運賃計算結果表示

発着で他に最安運賃経路が存在する場合は、情報表示部に最安運賃を括弧書きで表示します。適用例を図 80 に示します。

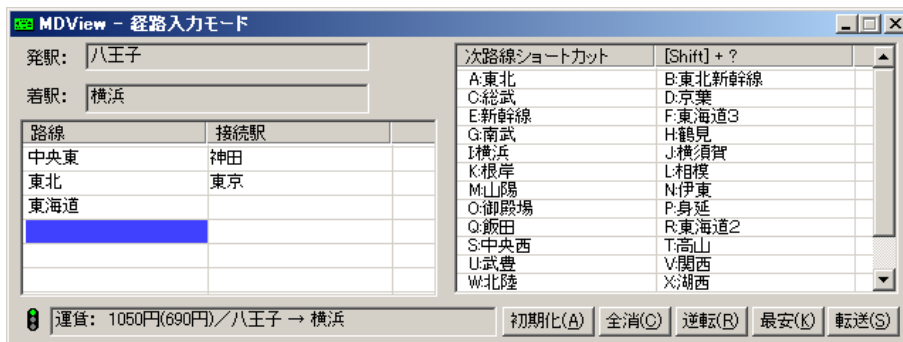


図 80 大都市近郊区間相互発着において他に最安運賃経路が存在する場合

7.4.2 運賃計算時のエラー

運賃を計算する際、情報表示部にエラーが表示されることがあります。大抵のエラーは、情報表示部の表示内容を見ればわかるようになっています。適切に修正して、再度運賃計算を試みてください。図 81 に経由線区不足エラーの例を示します。

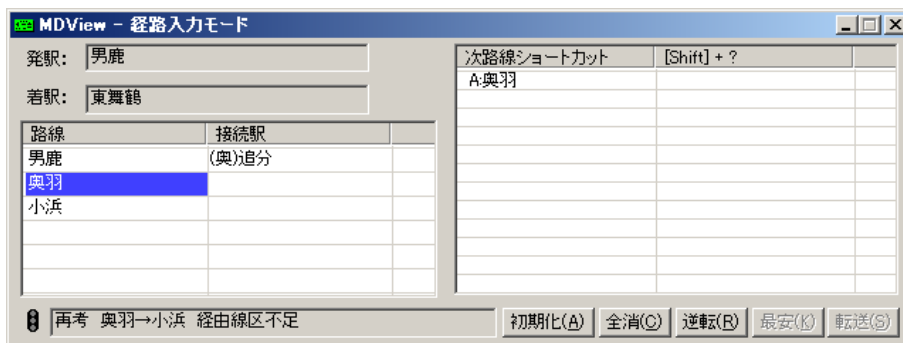


図 81 経由線区不足エラーの例

また、図 82 に、正しい接続駅が設定されていない場合に表示される接続駅誤りエラーの例を示します。

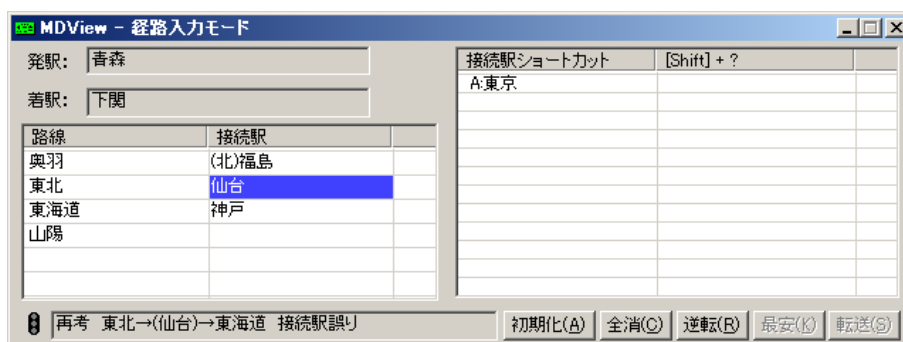


図 82 接続駅誤りエラーの例

7.4.3 運賃計算結果ダイアログの表示

7.3.5 で示す運賃計算結果アイコンの灯火が灯っているとき、アイコンをクリックするか、#を押下すると運賃計算結果ダイアログを表示します。図 83 に運賃計算結果ダイアログの例を示します。

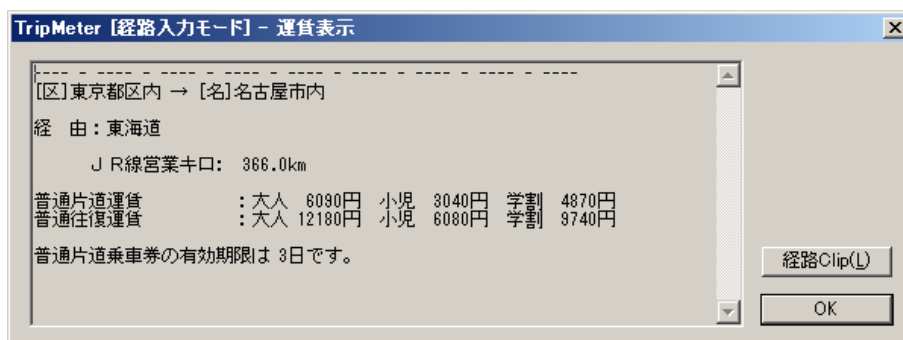


図 83 運賃計算結果ダイアログ

ここで表示するダイアログは、6.7.1 で示す TripMeter 運賃経路表示の運賃表示ダイアログとほぼ同じ機能を備えています。

また、大都市近郊区間相互発着の区間の運賃を計算する場合、対象の区間より安価な運賃を算出できる区間がある場合、その運賃計算結果を表示します。

発駅：八王子、着駅：横浜、経路：中央東，東北，東海道

上記経路の場合、横浜、東海道 経由のほうが運賃計算経路を短くすることができます。以下、上記問題を反映した例を図 84 に示します。

運賃計算結果ダイアログの下部に、安価な運賃を算出できる区間を表示します。

7.5 経路の転送

7.3.5 で示す運賃計算結果アイコンの灯火が灯っているとき、経路入力モードで設定した運賃計算経路を MDView メインウィンドウへ転送することができます。転送 (S) ボタンを押下するか、Ctrl + S を押下す

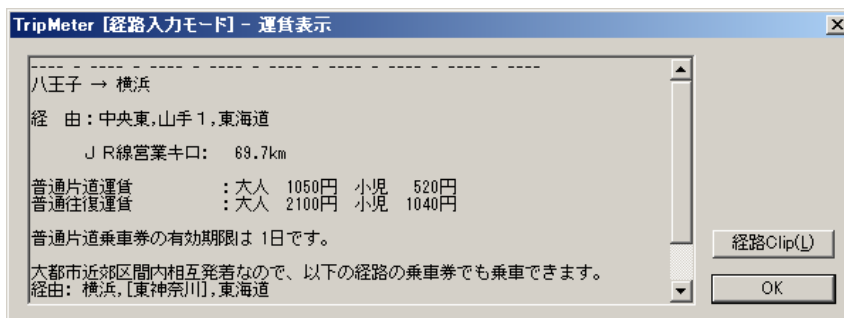


図 84 大都市近郊区間内最安区間の例

ることで転送を行います。転送が行われていると、MDView メインウィンドウの TripMeter が更新されま
す*37。なお、MDView 本体で何らかのダイアログが表示されているときは、転送が行われません。なお、転
送時にメインウィンドウにフォーカスが移りますが、Ctrl + Shift + S を押下するとメインウィンドウに
フォーカスを移さず転送を行うことができます。

7.6 特殊な機能

7.6.1 入力値の初期化

初期化 (A) ボタンを押下するか、Ctrl + Shift + A を押下すると、発駅、着駅、経路情報入力部が初期
化されます。初期化が行われると、発駅にフォーカスが移動します。

7.6.2 経路の全消

全消 (C) ボタンを押下するか、Ctrl + Shift + C または F3 を押下すると、経路情報入力部の情報を初期
化します。

7.6.3 経路の逆転

逆転 (R) ボタンを押下するか、Ctrl + R または F4 を押下すると、発駅と着駅を逆転し、かつ、経路情報
入力部の経路情報を逆転します。

7.6.4 大都市近郊区間相互発着時の最安運賃検索

大都市近郊区間最安検索機能が有効の場合、発駅と着駅が同一大都市近郊区間内の駅のときに運賃が最安と
なる区間を検索することができます。発駅と着駅を入力した後に、最安検索が利用可能な条件*38を満たして
いる場合は最安 (K) ボタンが有効化されます。最安 (K) ボタンを押下するか、Ctrl + K または F5 を押下す
ると最安運賃区間を検索し、情報表示部に運賃を表示します。

*37 すでに TripMeter が設定されている場合は、TripMeter が上書きされますので注意してください。

*38

7.6.5 次路線 / 接続駅ショートカット

経路情報入力部で路線や接続駅を入力するとき、情報選択部に次の路線候補や接続駅の候補が表示されます。Shift を押しながら各項目のラベルに表示されているアルファベットを押下するか、情報選択部の項目をダブルクリックすることで候補を入力することができます。

7.6.6 路線コード / 接続駅コードでの入力

経路情報入力部で路線や接続駅を入力するとき、路線コードや接続駅コードでの入力を受け付けます^{*39}。

7.6.7 経路の補完

7.4 で示す運賃計算で途中の路線や接続駅が全て入力されていなくても、路線間の接続状況によって適宜経路の補完を行います。経路の補完は MARS for MS-DOS と同様の方式になるようにしていますが、独自の解析結果をもとに実施しているため細部では異なります。

7.6.8 単駅指定

経路入力モードでも、発駅や着駅に対して単駅指定^{*40}を行うことができます。発駅や着駅にフォーカスがあるときに Ctrl + Shift + 6 か F6 を押下することで設定することができます。図 85 に発駅に対して単駅指定を行った例を示します。

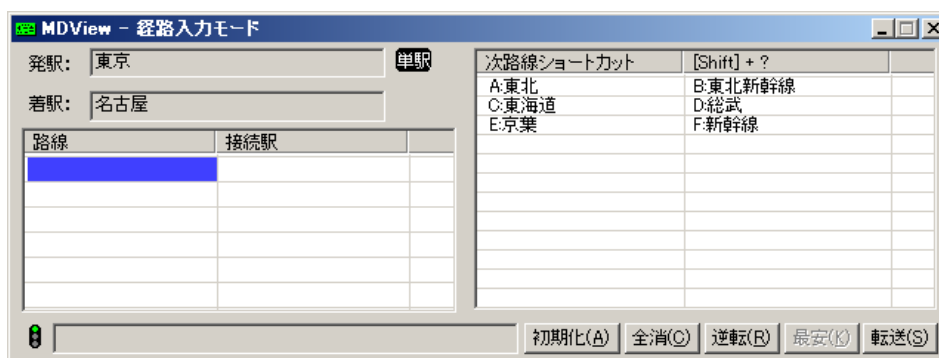


図 85 単駅指定

また、<を押下すると発駅に単駅指定、>を押下すると着駅に単駅指定を行うことができます。

表 12 に単駅指定とキー入力との関係を示します。

単駅指定は特定都区市内制度を強制的に利用しないようにします。そのため、適切に利用しないと、正しい運賃計算を行うことが出来ない場合があります。

7.6.9 メインウィンドウへの移動

経路入力モードウィンドウにフォーカスがあるときに^を押下すると、MDView メインウィンドウにフォーカスを移動します。また、経路入力モードウィンドウが開いているとき、MDView メインウィンドウで^を押

^{*39} 路線コード / 接続駅コードは、MARS for MS-DOS 付属の LINES.TXT および CS.TXT を参照ください。または、5.4.3 で示す路線 / 接続駅リストでも確認することができます。

^{*40} 単駅指定については、6.7.2 に示す単駅指定も合わせてご確認ください。

表 12 単駅指定とキー入力

キー入力	効果
F6、Ctrl + Shift + 6	発駅または着駅にフォーカスがあるときに単駅指定
<	発駅に単駅指定
>	着駅に単駅指定

下すると、経路入力モードウィンドウにフォーカスを移動します。また、7.5 で示す経路の転送を行った際は、経路入力モードウィンドウから MDView メインウィンドウにフォーカスが移動します。図 86 にウィンドウ間の移動の概念図を示します。

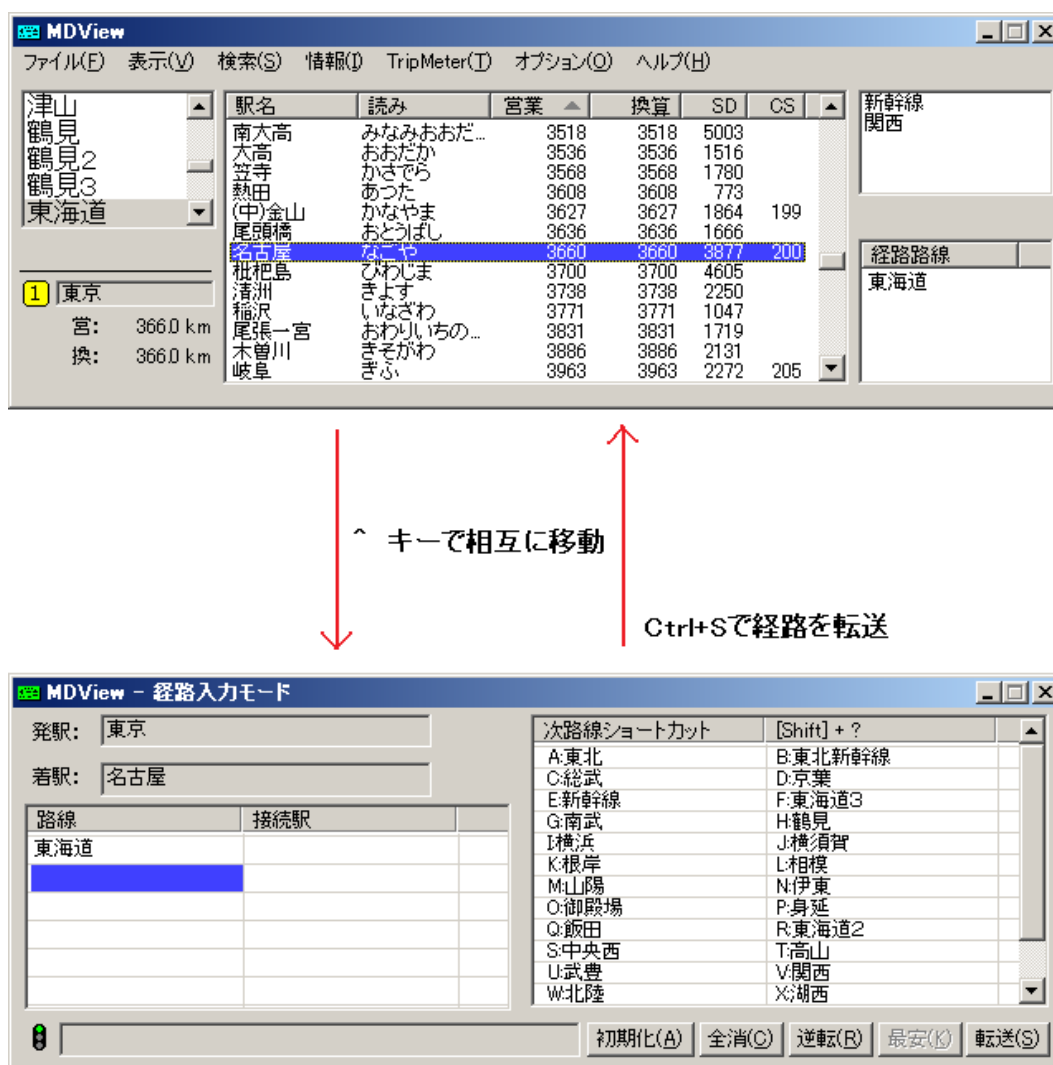


図 86 ウィンドウ間の移動

7.6.10 メインウィンドウの TripMeter 変更

6.8 でメインウィンドウにおける TripMeter の変更について述べていますが、経路入力モードからも TripMeter を変更することができます。Ctrl を押しながら 1~5 のいずれかのキーを押下すると、それぞれの場合に対応した TripMeter に変更します。例えば Ctrl + 2 で 2 番の TripMeter に変更したことになります。なお、メインウィンドウでなんらかのダイアログをしている場合は、経路入力モードから TripMeter を変更することができません。

7.7 経路入力モードの終了

経路入力モードウィンドウにフォーカスがあるときに、Ctrl + W を押下すると経路入力モードを終了します。また、経路入力モードウィンドウを閉じると、経路入力モードを終了します。さらに、MDView を終了すると、経路入力モードも同時に終了します。

8 オプション

8.1 運賃計算表示

8.1.1 運賃経路表示

運賃計算結果をダイアログに表示したりクリップボードへ転送した際の表示内容を制御します。以下に 函館 から 北上 の運賃計算結果の例を示します。

函館 北上

経 由：函館，江差，海峡，津軽，青い森鉄道，いわて銀河，東北

J R 線営業キロ： 208.2km 運賃計算キロ： 223.9km
J R 北海道営業キロ： 129.0km 運賃計算キロ： 141.6km

普通片道運賃 : 大人 9430 円 小児 4720 円 学割 8010 円
普通往復運賃 : 大人 18860 円 小児 9440 円 学割 16020 円

-----社線再掲-----

[いわて銀河]

営業キロ： 82.0km

いわて銀河運賃 : 大人 2300 円 小児 1150 円

[青い森鉄道]

営業キロ： 121.9km

青い森鉄道運賃 : 大人 3030 円 小児 1520 円 学割 2430 円

普通片道乗車券の有効期限は 4 日です。

運賃計算系路上に社線を利用している場合、会社別に営業キロおよび運賃を再掲しています。この表示が不要な場合は表示対象から外すことができます。「オプション (O)」→「運賃計算表示 (V)」→「運賃経路表示 (R)」→「社線運賃再掲 (P)」を選択することで変更可能です。

また、運賃計算経路上に J R 北海道、J R 四国および J R 九州を利用している場合は、距離表示に各会社別の営業キロ / 運賃計算キロを再掲しています。この表示が不要な場合は表示対象から外すことができます。「オプション (O)」→「運賃計算表示 (V)」→「運賃経路表示 (R)」→「JR 三島距離再掲 (I)」を選択することで変更可能です。

さらに、2013年3月31日まで発売していた周遊きっぷのアプローチ券の運賃を表示することが出来ます。「オプション(O)」→「運賃計算表示(V)」→「運賃経路表示(R)」→「周遊きっぷ運賃表示(S)」を選択することで変更可能です。

8.2 運賃計算条件

8.2.1 社線関連

社線を利用する場合に、運賃計算結果の挙動を変更する際に利用します。

社線を運賃計算の対象から外すことができます。この場合、各種運賃表示はJR線部分の運賃のみの表示となります。「オプション(O)」→「運賃計算条件(F)」→「社線関連(P)」→「社線運賃計算対象(F)」を選択することで変更可能です。

社線を発駅または着駅とした場合、通過連絡運輸の条件を満たさなくなるため片道乗車を発売できなくなる場合が多くなります。^{*41}この場合でも社線発着を許容するかの挙動を変更することが出来ます。「オプション(O)」→「運賃計算条件(F)」→「社線関連(P)」→「社線発着を許容(O)」を選択することで変更可能です。

MARS for MS-DOSでは、複数の通過連絡運輸^{*42}は不可との判断から運賃計算をすることが出来ません。複数の通過連絡運輸を共用するかの挙動を変更することが出来ます。「オプション(O)」→「運賃計算条件(F)」→「社線関連(P)」→「複数の通過連絡運輸を許容(I)」を選択することで変更可能です。

BRT線を運賃計算の対象から外すことができます。BRT線と鉄道線の乗り継ぎによる運賃低減がある場合でも適用せず、低減前の運賃を表示します。「オプション(O)」→「運賃計算条件(F)」→「BRT線関連(B)」→「BRT線運賃計算対象(F)」を選択することで変更可能です。

MARS for MS-DOSでは、BRT線はJR以外の会社との間に通過連絡運輸の設定が無いことから、運賃計算をすることが出来ません。BRT線と社線の同時利用の可否について挙動を変更することが出来ます。「オプション(O)」→「運賃計算条件(F)」→「BRT線関連(B)」→「BRT線と社線の同時利用(M)」を選択することで変更可能です。

8.2.2 特例適用状況(基準規程114条)

旅客営業取扱基準規程^{*43}114条により運賃の内方調整が必要な場合、MDViewはその適用を予測して適用します。また、予測の一部の例外が存在するため、2段階補正を行っています。本機能は適用状況をオプションにより変更することができます。適用状況を変更するためには、「オプション(O)」→「運賃計算条件(F)」→「特例適用状況(S)」→「基準規程114条(J)」の中の項目を選択することで変更可能です。下表にオプションと適用状況の関連性を示します。なお、デフォルト値は「適用する」です。

8.2.3 特例適用状況(基準規程43条の2)

旅客営業取扱基準規程43条の2により、山陽新幹線の小倉駅・博多駅を折り返し、それぞれ日豊線(西小倉駅経由)・篠栗線(吉塚駅経由)の形態の乗車が認められています。このとき、経路の重複チェックを行う際に折り返し駅の小倉駅・博多駅を利用済とするかどうか議論の余地があります。以下に例を

^{*41} MDViewは、通過連絡運輸ではない連絡運輸の範囲を管理していません。

^{*42} いわて銀河鉄道線と青い森鉄道線を乗り継ぐ場合は、2社で1つの通過連絡運輸との判断から可能

^{*43} JR東海は「旅客営業取扱細則」

表 13 基準規程 114 条の適用オプション

オプション	予測適用	2 段階補正
適用する (O)		
適用しない (F)	×	×
2 段階補正をしない (J)		×

挙げます。

発駅：新下関、着駅：博多南、経路：新幹線,[博多], 鹿児島 1, 篠栗, 筑豊,[原田], 鹿児島 1, 博多南

上記経路を考えると、新幹線 から 鹿児島 1 を経由して 篠栗 方面へと進んでいます。このとき、旅客営業取扱基準規程 43 条の 2 により、吉塚 - 博多 の区間は運賃計算の距離から除外することが出来ます。その後経路は 筑豊 (原田 経由)、鹿児島 1 と進み、再び 博多 に至ります。博多 が 2 度目となるため以降は打ち切りとし、後続の 博多南 まで進む場合は経路重複と考えることが出来ます。しかし、同特例が設定された経緯を鑑み、かつ運賃計算の距離から除外されていることから折り返しの 博多 は未使用と考える余地もあります。折り返しの 博多 を未使用と考えると、2 度目の 博多 は運賃計算系路上 1 度目の利用となり、以後の 博多南 へと進むことが出来ます。

適用状況を変更するためには、「オプション (O)」→ 「運賃計算条件 (F)」→ 「特例適用状況 (S)」→ 「基準規程 43 条の 2(K)」の中の項目を選択することで変更可能です。

8.2.4 特例適用状況 (基準規程 115 条)

旅客営業取扱基準規程 115 条により、規則 86 条 (特定都区市内制度) を適用せず運賃計算を行うことが出来ます。MDView では、MARS_DKK.DAT を読み込んでいる場合、その適用の可能性を検討します。

具体的な例を示します。

発駅：用土、着駅：新宿、経路：八高, 青梅, 中央東

上記経路は、営業キロ 92.6km、換算キロ 98.4 です。着駅の 新宿 は、[山] 山手線内の駅であり、かつ、[山] 山手線内の中心駅である 東京 からの営業キロを調べると 102.9km です。よって、着駅は [山] 山手線内となります。運賃は、1890 円です。ただし、[山] 山手線内の中心駅である 東京 と、発駅の 用土 を見ると、東京近郊区間相互発着であり、最短の営業キロは 98.2km (経由：東北, 川越, 八高) と 100.0km 以下です。この場合、旅客営業取扱基準規程 115 条により [山] 山手線内 を適用せず、着駅を 新宿 の単駅表示として運賃計算をすることができます。運賃を計算すると 1620 円と、[山] 山手線内 を適用するより安価となります。原則、運賃が安価となる場合は自動的に旅客営業取扱規程 115 条を適用します。

なお、旅客営業取扱基準規程 115 条 (第 2 項) が適用されると、運賃表示ダイアログ等に以下のように規程の適用を示す注記が表示されます。

用土 新宿

経 由：八高, 青梅, 中央東

J R 線営業キロ： 92.6km 運賃計算キロ： 98.4km

[注] 規程 115 条第 2 項を適用しました。

普通片道運賃 : 大人 1620 円 小児 810 円
普通往復運賃 : 大人 3240 円 小児 1620 円

普通片道乗車券の有効期限は 1 日です。

一方、同じような状況で運賃が安くないが旅客営業取扱基準規程 115 条を適用できる場合があります。適用の可否によって乗車券の効力（下車可能の範囲、途中下車の可否等）が異なります。そこで、適用が可能である場合は、以下のように注記を表示します。

発駅：用土、着駅：高田馬場、経路：八高，青梅，中央東，山手 2

用土 [山] 山手線内

経 由：八高，青梅，中央東，東北

J R 線営業キロ： 102.9km 運賃計算キロ： 108.7km

[注] 規程 115 条第 2 項を適用し単駅指定が可能です。

普通片道運賃 : 大人 1890 円 小児 940 円 学割 1510 円
普通往復運賃 : 大人 3780 円 小児 1880 円 学割 3020 円

普通片道乗車券の有効期限は 1 日です。

MDView は、旅客営業取扱基準規程 115 条の適用状況を設定することが出来ます。適用状況は、「オプション(O)」→「運賃計算条件(E)」→「特例適用状況(S)」→「基準規程 115 条(Y)」の中の項目を選択することで変更することが出来ます。デフォルト値は「積極適用する」です。

表 14 基準規程 115 条の適用オプション

オプション	運賃が安価となるとき	運賃が安価とならないとき
積極適用する (Y)	適用し注記を表示する	注記を表示する
注記を表示する (A)	注記を表示する	注記を表示する
適用しない (N)	適用しない	適用しない

8.2.5 重複確認

原則、新幹線と並行在来線は同一の路線と同じように扱い、新幹線から在来線へ、または在来線から新幹線へ乗り換える際に折り返しとなる形態の乗車は運賃計算を一度打ち切ることが旅客営業規則に規定されており

ます。しかし、小倉から博多の新幹線と、並行在来線の間は、旅客営業規則 68 条第 4 項第 3 号において「直接乗り継ぐとき」運賃計算を打ち切るよう規定されております。このため、直接乗り継がない形態の乗車の場合、打ち切り計算を行わなくてもよいという解釈の余地があります。MARS for MS-DOS は、打ち切り計算を行わない方針が取られています。MDView では、打ち切り計算が行われるようにも変更可能としました。適用状況を変更するためには、「オプション (O)」→「運賃計算条件 (F)」→「重複確認 (D)」→「山陽新幹線 (九州地区) 並行線重複確認 (S)」の中の項目を選択することで変更可能です。

8.2.6 運賃強制計算

運賃計算経路が途中で重複するなどの理由で運賃計算が行われない場合でも、強制的に運賃を計算するように変更することが出来ます。「オプション (O)」→「運賃計算条件 (F)」→「運賃強制計算 (F)」を選択することで変更可能です。

8.3 特定都区市内

8.3.1 中心駅擬制

旅客営業規則第 86 条に定める特定都区市内のうち [浜] 横浜市内 [阪] 大阪市内 [神] 神戸市内 について、特定都区市内の入口 / 出口路線が新幹線だった場合、それぞれの中心駅を「新横浜」「新大阪」「新神戸」にすることができます^{*44}。

オプション (O) → 特定都区市内 (C) → 中心駅擬制 (C) を選択し、新横浜駅を中心駅に擬制 (Y)、新大阪駅を中心駅に擬制 (O)、新神戸駅を中心駅に擬制 (K) をそれぞれ選ぶことができます。選択済みの項目を再度選択すると、解除となります。

また、以下のすべての擬制を設定 (A) を選択すると、すべての擬制を設定します。

8.3.2 同一都区市内環状線

旅客営業規則 86 条のただし書きにより、特定都区市内区間を通過後に発駅や着駅になる際は同規則を適用せず単駅での発券となります。このとき、同一都区市内区間を発駅と着駅とし、かつ、途中経路に同都区市内区間を通過しない場合は、発駅・着駅ともに同規則を適用します。ここで、同条件の際、発駅・着駅共に単駅での発券とするよう変更することが可能です。適用状況を変更するためには、「オプション (O)」→「特定都区市内 (C)」→「同一都区市内環状線 (R)」→「都区市内表示 (C)」の項目を選択することで変更可能です。

8.3.3 中心駅置換後

旅客営業規則 86 条により中心駅に発駅または着駅を置き換える際、置き換え後の運賃計算計に対して旅客営業規則 69 条を適用した後に距離判定を行うかを変更することができます。具体例として以下の経路について考えます。

^{*44} 規則上は、中心駅は原則通り「横浜」「大阪」「神戸」であるべきですが、JR の発券システム マルス では「新横浜」「新大阪」「新神戸」に中心駅を擬制しているようです。

例えば、新横浜から米原まで新幹線経由の運賃を計算する場合、規則に厳密な解釈だと新横浜が属する [浜] 横浜市内の中心駅は横浜です。そのため、運賃計算経路は、横浜から米原で経由は東海道、横浜、新幹線に置き換えられます。この場合、営業キロ 425.0km で運賃は 6830 円です。

これに対して、新横浜を [浜] 横浜市内の中心駅に擬制すると、営業キロ 417.1km で運賃は 6620 円です。

マルスと MARS for MS-DOS では違う立場をとっており、オプションにて両方を選ぶことができるようにしています。

発駅：吉永、着駅：矢野、経路：山陽,[三原],呉

矢野は広島市内の駅のため、旅客営業規則 86 条が適用されるかの確認をするために吉永から広島営業キ口を確認します。このときの経路は

発駅：吉永、着駅：広島、経路：山陽,[三原],呉,[海田市],山陽

であり、営業キ口は 217.2km です。この経路は、山陽線と呉線の間で旅客営業規則 69 条により、山陽線経由が運賃計算経路として採用されます。そのため

発駅：吉永、着駅：広島、経路：山陽

となり、営業キ口は 195.2km です。営業キ口が 200km 以下のため、旅客営業規則 86 条は適用しないものとします。

反面、旅客営業規則 86 条の適用可否を検討する際、運賃計算経路上はそのままの経路で判定する。つまり

発駅：吉永、着駅：広島、経路：山陽,[三原],呉,[海田市],山陽

の営業キ口 217.2km を採用し、着駅を広島市内とするという解釈も一部であります。^{*45}そのため、挙動を変更することを可能としました。

挙動を変更するためには、「オプション (O)」→「特定都区市内 (C)」→「中心駅置換後 (A)」→「69 条適用 (C)」の項目を選択することで変更可能です。

8.4 大都市近郊区間

8.4.1 最安経路検索を利用

MDView は、以下のファイルが読み込まれていると、大都市近郊区間相互発着時でさらに安価な経路を検索し運賃表示ダイアログに表示させたり、経路入力モードで最安検索を行うことができます。

- MARS_DKK.DAT

本機能を利用しないように設定することも可能です。メニューの「オプション (O)」→「大都市近郊区間 (K)」→「最安経路検索を利用 (K)」で変更が可能です。最安経路検索等の機能が利用できる場合は、メニューにチェックマークが表示されています。

8.5 検索条件

8.5.1 乗換検索

5.3.5 で説明する「乗換検索」は、次の路線と次の次の路線を検索対象としています。ここで、検索対象と次の路線のみとするよう変更が可能です。適用状況を変更するためには、「オプション (O)」→「検索条件 (S)」→「乗換検索 (C)」→「次々路線を検索する (N)」の項目を選択することで変更可能です。

^{*45} マルスでは後者の解釈という話を聞きます。MARS for MS-DOS は前者の解釈の立場のようです。

9 まとめ

9.1 著作権表示

このプログラムの著作権は、作者である 小石川 将 にあります。著作権の侵害にあたる行為は避けてください。

本プログラムはフリーウェアです。免責、無保証を条件に無償で使用できます。頒布に際して、実費を超える対価を要求しないでください。

本プログラムは、内容を改変しない限り再配布が可能です。

このプログラム使用によって、使用者が損害を被ったとしても、作者はその責任を一切負いません。特に本プログラムでの運賃計算は推奨しません。また、作者はデータの更新や不具合の改善を継続的に行うことを保証しません。

バグ報告などは、以下のアドレスに電子メールでご連絡ください。

mdview@mmrl.gr.jp

できるだけお返事はするつもりですが、バグ修正は義務ではないこと、またお返事ができない場合があることをご了承ください。

9.2 謝辞

MARS for MS-DOS を公開してくださった、SWA さんに感謝します。運賃計算の手間を大幅に軽減するだけでなく、このソフトウェアを通して運賃計算の楽しさを知るきっかけを与えてくれました。そして、なにより MDView を作る動機を与えていただきました。

また、本プログラムを作成するにあたり、何度もテストに付き合っていた東城さんに感謝します。彼の助言とアイデアがなければ MDView はもっと使いづらく、機能も乏しいものだったでしょう。何度もめげそうになったドキュメント作成においても、励ましたり、食事に付き合っていたりしてくれたおかげで、なんとか書き終えることができました。ありがとうございました。

9.3 更新履歴

更新日	対応バージョン	修正内容
2013年4月12日	1.22	各種機能追加に伴い改訂
2012年3月17日	1.21	各種機能追加に伴い改訂
2011年11月1日	1.20	経路入力モード等の機能追加に伴い改訂
2011年6月18日	1.10	各種機能追加に伴い改訂
2006年4月1日	1.00	初版